

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会 報告書

素 案

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会

第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会

目 次

第1章 評価の目的と流れ	4
1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割	4
2. 評価について	5
(1) 評価の目的・視点	5
(2) 評価の対象	5
(3) 評価委員会の構成	6
第2章 評価の方法	7
1. 評価の基準	7
2. 評価の方法	7
1 施設利用状況調査	7
(4) 利用者アンケート調査	8
(5) 無作為抽出アンケート調査	9
(6) 意見交換会及び視察	10
第3章 評価の結果	11
1. 吉祥寺東コミュニティ協議会	11
2. 本宿コミュニティ協議会	14
3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会	17
4. 御殿山コミュニティ協議会	20
5. 本町コミュニティ協議会	23
6. 吉祥寺西コミュニティ協議会	26
7. 吉祥寺北コミュニティ協議会	29
8. けやきコミュニティ協議会	32
9. 中央コミュニティ協議会	35
10. 西久保コミュニティ協議会	38
11. 緑町コミュニティ協議会	41
12. 八幡町コミュニティ協議会	44
13. 関前コミュニティ協議会	48
14. 西部コミュニティ協議会	51
15. 境南コミュニティ協議会	54
16. 桜堤コミュニティセンター	58

第4章 総評	61
1. 協議会運営全般について	61
(1) 情報発信	61
(2) 人材の確保・育成	63
(3) 諸団体との連携	65
(4) 気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり	
(5) 地域や利用者の状況の把握	
(6) 電子的な連絡の手段の考慮	
2. 地域フォーラム、コミュニティ未来塾について	67
(1) これまでの経緯と現状について	67
(2) 今後に向けて（総括）	71
3. 施設設備等のハード面について	73
(1) これまでの経緯と現状について	73
(2) 今後に向けて（総括）	76
資料編	77
1. 議論の経過	77
2. 各コミュニティ協議会の概況	77
3. 各種調査結果	77
(1) 無作為抽出市民アンケート	77
(2) 利用者アンケート	77
(3) 意見交換会結果	77
(4) 視察	77

はじめに

第1章 評価の目的と流れ

1. 武蔵野市コミュニティ評価委員会の役割

武蔵野市では、1971 年の第一期基本構想・長期計画においてコミュニティ構想を策定し、市民の自発的なつながりによるコミュニティづくりを推進してきた。このコミュニティづくりの中核的な役割を担っているのが、コミュニティ協議会により運営されるコミュニティセンターであり、市民による自主三原則（自主参加、自主企画、自主運営）に基づき運営が行われてきた。

近年では、地域課題も複雑化・多様化しており、福祉、子育て支援、青少年健全育成、防犯・防災、環境、まちづくり等の幅広い分野で、市民が自主的に行う活動や市民と行政とが連携や協働により行う取り組みがより一層求められている。

こうしたなかで、コミュニティづくりや地域課題の解決において、コミュニティセンターは非常に重要な役割を果たしている一方で、コミュニティセンターを運営するコミュニティ協議会の担い手不足や高齢化・固定化など人材面での課題、多様な主体のネットワークづくりにおける課題、施設の設備面での課題（老朽化・バリアフリー化等）など、様々な課題に直面している。今後、コミュニティセンターがこれまでと同様又はそれ以上に市民活動の拠点としてその機能を果たせるよう、運営者であるコミュニティ協議会の取り組みについて評価を行い、より効果的な施設運営や取り組みの発展につなげていくことが求められている。

こうした状況を踏まえ、本市では、武蔵野市コミュニティ条例（平成 13 年 12 月武蔵野市条例第 33 号）に基づいて、各コミュニティ協議会の施設運営や事業内容について体系的に評価し、広く市民および市長に対する説明責任を果たすとともに、施設運営や事業内容をより一層改善していくことを目的として、第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会を設置した。

この第四期武蔵野市コミュニティ評価委員会での評価活動を介して、各協議会によるコミュニティセンターの管理運営の状況を広く市民に公開することで、より開かれた運営となることを目指すとともに、今後も、コミュニティセンターを拠点としたコミュニティづくりの活動が進展するよう、各協議会の活動を多くの市民へ周知することを目的とするものである。また、この評価活動を通して、各コミュニティ協議会が、日々のコミュニティセンターの運営の振り返りを行うとともに、他のコミュニティ協議会による取り組みを参考にして互いに学び合い、高め合う機会とすることも大きな狙いとなっている。

2. 評価について

(1) 評価の目的・視点

本市では、昭和46年に定めた第一期基本構想・長期計画以来、市民自治を掲げ、市民施設のネットワーク計画とコミュニティ構想により、「多世代が集う地域の居場所」、「地域における市民活動の拠点」としてコミュニティセンターを整備してきた。コミュニティセンターはそれぞれの地域の住民が組織するコミュニティ協議会によって自主三原則（自主参加・自主企画・自主運営）に基づき管理運営が行われており、協議会はコミュニティセンターを拠点に自主活動としてのゆるやかなコミュニティづくりを進めている。

こうしたコミュニティ協議会の活動は、コミュニティセンターの管理運営と相まって、市民の自主性を高める市民自治のまちづくりの要として位置付けられており、各種イベント等の個々の活動についてはそれぞれの協議会の自主に委ねている。

そのため、本評価委員会の目的の第一は、コミュニティ協議会の取組みが客観性・透明性をもって適切に行われていることを確認し、広く周知することによって、コミュニティ協議会とコミュニティセンターが市民活動の要として一層開かれたものとなることである。目的の第二は、各コミュニティ協議会が評価委員会による評価活動を通じて自らの取組みを振り返り、また他の協議会の状況を知ることによって、新たな気づきや学びにつながり、今後の活動の発展に資することである。また、〜〜〜〜（加筆予定）

(2) 評価の対象

本評価委員会での評価対象は下記の16協議会である。

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 吉祥寺東コミュニティ協議会 | 9. 中央コミュニティ協議会 |
| 2. 本宿コミュニティ協議会 | 10. 西久保コミュニティ協議会 |
| 3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会 | 11. 緑町コミュニティ協議会 |
| 4. 御殿山コミュニティ協議会 | 12. 八幡町コミュニティ協議会 |
| 5. 本町コミュニティセンター協議会 | 13. 関前コミュニティセンター |
| 6. 吉祥寺西コミュニティ協議会 | 14. 西部コミュニティ協議会 |
| 7. 吉祥寺北コミュニティ協議会 | 15. 境南コミュニティ協議会 |
| 8. けやきコミュニティ協議会 | 16. 桜堤コミュニティ協議会 |

(3) 評価委員会の構成

本評価委員会の委員は下記の 6 名から構成される。

委員長	玉野 和志(首都大学東京人文科学研究科教授)
副委員長	深田 榮一(武蔵野市コミュニティ研究連絡会会員)
委員	佐藤 光彦(日本大学理工学部教授)
委員	青木 一郎(武蔵野市コミュニティ研究連絡会会員)
委員	寺島 芙美子(公募委員・吉祥寺北町在住)
委員	小島 麻里(武蔵野市市民部市民活動担当部長)

第2章 評価の方法

1. 評価の基準

武蔵野市コミュニティ条例の趣旨に則って各協議会が独自の工夫を重ね、地域のニーズに沿った運営をしているかどうかには焦点をあて、下記の項目を基準とした。

図表 1 評価基準

評価項目	評価の着眼点
① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者への配慮と適切な対応 ・ 新しい利用者・利用団体の増加 ・ 施設の利用方法の工夫 ・ 情報の提供
② 地域におけるネットワーク機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり ・ 地域とコミセンのつながりづくり
③ 持続可能な協議会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営委員・協力員の人材充実 ・ 持続可能な事業の実施 ・ 活発な協議会運営
④ 適正な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会則や利用の決まりに沿った公平な運営 ・ 個人情報の保護 ・ 事業計画に沿った運営 ・ 経費削減と予算の適正な執行
⑤ 施設・設備の管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異常時の市への連絡・報告 ・ 防災・防犯 ・ 防火の管理 ・ 備品の管理

2. 評価の方法

1 施設利用状況調査

過去 5 年間における各コミュニティセンター別・部屋別の利用件数及び利用人数について集計するとともに、各コミュニティセンターが実施している内部評価結果、実施事業概要（意見交換会前の事前調査で聴取）などを参考に、各コミュニティセンターの利用状況について調査を実施した。

※調査結果から得られた主な示唆を追記予定

(4) 利用者アンケート調査

各コミュニティセンターの利用者を対象に①施設運営や事業内容について、「施設の安全性・利便性」「利用者へサービス・対応」「連携・交流促進」「利用者の運営参加」の観点から満足度を把握するとともに、今後のコミュニティセンターに求める機能について利用者より意見を収集することを目的に実施した。

※調査結果から得られた主な示唆を追記予定

図表 2 利用者アンケート調査の実施概要

調査の概要					
【調査対象】					
・ 各コミュニティセンターの利用者 (計 10,000 部配布)					
【調査内容】					
(1)回答者属性					
・ 性別、年齢、住まい					
(2)利用状況					
・ 利用頻度、利用目的、コミュニティづくりが活発になるための施設・場所					
(3)サービス・運営への満足度					
・ 窓口対応、公平な運営、情報発信、総合的な使い心地、今後の利用継続意向					
(4)事業への参加状況及び意向					
・ コミセン主催・共催事業への参加経験、今後の参加意向					
【調査方法】					
・ 各コミュニティセンターにて利用者に直接配布・溜置での回収					
【調査時期】					
・ 2019 年 5 月～2019 年 6 月 (※一部コミセンでは工事のため 8 月に実施)					
【回収状況】					
①吉祥寺東	307 件	⑦吉祥寺北	113 件	⑬関前	53 件
②本宿	246 件	⑧けやき	155 件	⑭西部	50 件
③吉祥寺南町	67 件	⑨中央	157 件	⑮境南	59 件
④御殿山	42 件	⑩西久保	90 件	⑯桜堤コミセン	82 件
⑤本町	12 件	⑪緑町	63 件		
⑥吉祥寺西	57 件	⑫八幡町	65 件		

(5) 無作為抽出アンケート調査

第四期コミュニティ評価委員会の実施にあたって、地域コミュニティや市民自治に関する意識や活動の現状等を把握し、今後の地域コミュニティや市民自治のあり方について検討する際の基礎資料とすることを目的として、無作為に抽出した武蔵野市民 2500 名に対し、「地域コミュニティについてのアンケート調査」を実施した。アンケート調査の実施概要は以下に示すとおりである。

※調査結果から得られた主な示唆を追記予定

図表 3 無作為抽出アンケート調査の実施概要

調査の概要
<p>【調査対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民基本台帳から無作為抽出により満 18 歳以上の男女 2500 人を抽出 <p>【調査内容】</p> <p>(1)回答者属性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別、年齢、職業、世帯構成、居住地区、居住年数、普段の情報収集の方法 <p>(2)地域との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近所住民との近所づきあいの程度、「地域」のイメージ、地域に対する愛着の有無、地域との関わりについての今後の意向、「地域」をよりよくするためにあると良いつながり <p>(3)地域コミュニティ活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティへの参加状況、現在参加している地域コミュニティ活動の団体、参加したきっかけ、参加している地域コミュニティ活動が抱えている課題、(現在、地域コミュニティ活動に参加していない層の)地域コミュニティ活動への関心の有無及びその理由、地域コミュニティ活動に参加しやすくなるために必要なこと <p>(4)コミュニティセンターについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニティセンターの認知度、コミュニティセンターが地域住民によって運営されていることの認知度、利用しているコミュニティセンター、コミュニティセンターの運営面に携わった経験、コミュニティセンターを利用していない理由、コミュニティセンターに求める機能・サービス、コミュニティセンターに求める空間や設備、コミュニティセンターの企画・運営への関心意向 <p>【調査方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 郵送配布・留置・郵送回収 <p>【調査時期】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2019 年 7 月 8 日（月）～2019 年 8 月 2 日（金） <p>【回収状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 717 票／2500 票 （回収率：28.7％）

(6) 意見交換会及び視察**① 意見交換会**

全 16 協議会との意見交換会の実施にあたって、事前調書（主な事業内容、直面している課題、今後の意向等）を配布し各コミュニティ協議会にて回答し、事前提出していただいた。当日は、それらの事前調書に基づいて、評価委員との意見交換を行った。

図表 4 意見交換会の実施概要

意見交換会	概要			
第 1 回 8 月 7 日	①八幡町	10:00~10:45	④西部	13:30~14:15
	②西久保	10:45~11:30	⑤桜堤	14:15~15:00
	③御殿山	11:30~12:15	⑥本宿	15:00~15:45
第 2 回 8 月 20 日	①本町	10:00~10:45		
	②緑町	10:45~11:30		
	③吉祥寺南	11:30~12:15		
第 3 回 8 月 21 日	①吉祥寺北	10:00~10:45	④けやき	13:30~14:15
	②吉祥寺東	10:45~11:30	⑤境南	14:15~15:00
	③吉祥寺西	11:30~12:15	⑥中央	16:00~17:45

② 視察

全 19 施設(分館含む)を対象に、施設・設備の特徴や課題、コミュニティ活動との関係性などを確認することを目的に、評価委員による視察を実施した。

図表 5 視察の実施概要

視察	概要	
第 1 回 2 月 21 日	①吉祥寺東：13:30~14:30	④御殿山：15:00~16:00
	②本宿：14:00~15:00	⑤本町：15:30~16:30
	③吉祥寺南町：14:30~15:30	
第 2 回 8 月 26 日	①吉祥寺西：13:15~13:55	④けやき：15:20~16:00
	②吉祥寺西分館：14:05~14:15	⑤緑町：16:10~16:50
	③吉祥寺北：14:25~15:10	
第 3 回 8 月 30 日	①桜堤：9:15~9:55	⑥八幡町：14:05~14:55
	②西部：10:05~10:50	⑦西久保：15:05~15:50
	③境南：11:00~11:45	⑧中町集会所：16:00~16:15
	④関前：13:00~13:40	⑨中央：16:25~17:10
	⑤関前分館：13:50~14:05	

第3章 評価の結果

※各評価結果をどのように導き出したのかというプロセスを記載予定

1. 吉祥寺東コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】利用状況については団体利用が多い。</p> <p>【工夫している点】団体の2回目以降の利用には団体登録をしてもらっている。コミセンの利用申込手続きを簡素化し、次回以降の利用促進を図っている。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】普段コミセンを利用する機会が少ない方も参加しやすい事業（イベント）を検討している。</p> <p>【工夫している点】事業の一つである新春餅つき大会では、普段コミセンの利用が少ない方も多く参加し、地域行事に参加するきっかけになっている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】寄贈をいただいた美術作品を多数展示し、利用者が作品に触れあう場を提供している。</p> <p>【工夫している点】小規模施設であり、ホールも60名程度しか収容できないが、隣の児童室も合わせて使うことによって、できるだけ広いスペースを確保している。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミセンの情報について、地域の掲示板への掲載に加えて、地域内の約6900戸への全戸配布を行っている。</p> <p>【工夫している点】コミセン事務室に箱を用意して、地域のニュースを入れて、運営委員で共有している。</p> <p>【特筆すべき成果】地域に関心を持ってもらうために、コミセンの行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住や、ゆかりのある方を「九浦の家だより」で紹介している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり	<p>【現状】利用者懇談会等、一堂に会して利用者から意見を聞くということはあまり行っていない。窓口でのコミュニケーションによって意見等を吸い上げている。</p> <p>【工夫している点】利用者からの要望に応じて、登録団体との仲介を行い、つながりを創出している。</p>
地域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】利用者や地域諸団体が一堂に集まり、地域住民交流の場として新春餅つき&かるた大会を実施している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】コミセンだよりの編集は大部分を特定の運営委員が担っている。校正などは他の役員も担っているが、今後同じものを継続していけるような体制を築けるかが課題である。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】概ね安定的に事業を実施している（これまで組織的な体制などが原因で事業数を減らしたことはない）。</p> <p>【特筆すべき成果】昭和49年からほぼ毎月続いている「つどい」は、基本は地域課題の解決に向けてどなたでも参加できる事業。地域の課題を月に1回は話し合うというコンセプトで現在まで続いている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】運営委員会を毎月1回継続的に実施している。そのほか、会則に役員会についての記載を追加し、役員会も月に1回行うほか、頻繁に臨時役員会も開催している。</p> <p>【工夫している点】自己点検・評価表を作成する際には、臨時運営委員会を開催し、基本的には運営委員の総意によって作成を行っている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用の決まりについては、役員会、運営委員会で協議をしている。必要に応じて窓口会議を開催して決定している。 ➤ 利用者に対しては、団体登録をする際に書面を渡して説明するほか、総会資料に会則等を添付し、周知している。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 団体登録を基本としているため、あまり個人情報自体は預かっていない。 ➤ 鍵付きのキャビネット、机の引き出しに施錠して管理し、6か月経過後シュレッダーで廃棄している。
事業計画に沿った	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各主催教室・事業について、事前準備、事後報告を役員会や運営委員会にて行う。必要に応じて反省会を行う。反省会では意見も活発に出され、事

運営	後の事業で活かされているものもある。
経費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎月運営委員会にて会計報告を行い、執行状況を確認している。 ➤ 9月以降は決算状況、事業費、明細書を提示しつつ、適正な執行に向けて検討を行っている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口担当者より代表へ連絡する。代表に連絡とれない時は、副代表に連絡する。その後、市や運営委員へ連絡する。（緊急連絡網を作成している。） ➤ 一連の流れについては、運営委員、窓口担当者で情報共有している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 定期的に防災訓練を行っている。東部防災会と定期的に会合を持っている。 ➤ 武蔵野警察（東町駐在所）とも連携をとり、特殊詐欺に関する講話などの機会を設けている。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎日の開館時、閉館時に確認している。防火管理者以外にも資格を保有している運営委員がいる。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品担当者が備品台帳を管理し、適宜、追加・更新を行っている。2名以上で確認を行うようにしている。

（2） 総括及び今後期待すること （評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

2. 本宿コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】住民総会や利用者懇談会で利用者からの意見を吸い上げ、その後の運営委員会等で検討している。</p> <p>【工夫している点】コミセン利用における優先予約の対象エリアを小学校学区に合わせ、地域の要望に柔軟に対応している。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】様々な世代が利用しているが、特に子育て世代の来館を今後は増やしたいと検討している。</p> <p>【工夫している点】子ども向け事業（子ども劇場等）を行い、事業をきっかけに、子育て世代の利用促進に向け取り組んでいる。</p> <p>【特筆すべき成果】新しい事業（背骨コンディショニング等）を実施したことで、普段コミセンにあまり来られない方たちの参加につながった。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】1階はガラス張りの部分が多い造りとなっている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一部を「本宿ギャラリー」とし、地域の方々の作品等を展示している。ギャラリーは常設で2週間ごとに作品を入れ替え、地域から親しまれている。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミュニティだより（年3回発行）やホームページによって、広く広報をしている。</p> <p>【工夫している点】わかり易く楽しいポスター制作や、ミニチラシを作り、来館者への情報提供に努めている。</p> <p>ロビーに一目でわかるコミセン主催事業の報告パネルを掲示している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】コミセン祭りの開催では、普段利用している団体・個人の協力によって、継続的な交流を生み出すことができている。また、利用団体の発表会では、他の団体も鑑賞し、交流が生まれている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを練習場所に使用していた成蹊大学のマジシャンズクラブや、絵本の読み聞かせイベントに参加していた団体に声をかけ、コミセン祭りで手伝いをしてもらえたなど、連携の幅を広げている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】主催事業だけではなく、広く共催事業等も呼びかけを行っている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一角に設置した「本宿ギャラリー」は地域の人々のコミセン利用のきっかけにもなっている。また、地域の小中学校とは必要に応じて懇談会を設けるなどの関係性ができている。また、地域フォーラムを定期的に行い地域問題を取り上げ、共通認識を持つようにしている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員の人数は比較的少なく、一人当たりの負担は大きい。毎年、若干名の新規参加者が得られているが、まだ不足している。</p> <p>【工夫している点】コミセン祭りは、運営委員だけではなく利用団体にも積極的に関わってもらうことにより、より多くの方が協力してくれるようになった。コミセン祭りの実施には、成蹊大学のボランティアサークルの力も借りている。また、地域住民に限っていた募集範囲を市内在住に広げた。</p> <p>【特筆すべき成果】コミセン祭りの運営を手伝う利用団体が増えたことで、他の利用者・利用団体が運営に関与するハードルが低くなり、好循環が生まれている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】事業の精査をしつつ、実施している。</p> <p>【工夫している点】運営委員の中で事業の継続（継続／手直し／廃止）に関するアンケートを実施したり、共催事業を増やしたりしている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】主たる事業の企画・運営は少ない運営委員で行っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員は少数ではあるが、事業実施にあたっては、幅広い世代を対象とした企画を地域とともに事業として実施している。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて運営委員会で検討、決定している。 緊急の場合のみ役員会で決定し、その後運営委員会で正式に承認を得ている。 運営委員は地域の方に限定する運用をしていたが、住民総会で承認を得たうえで、昨年度からは範囲を地域に限定しないこととしている。（会則には明記していない。市民である必要あり）
個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> 申請書は1年、受付簿は個人1か月、団体1年の保存期間終了後、シュレッダーで適切に処理している。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> 全ての事業は計画時に運営委員会で検討、承認をしている。 各事業の係が運営委員会で報告しながら準備、実施している。係は年度初めに希望をとって調整し、決定している。 事業終了後は事業報告書を作成し、運営委員会で報告している。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> 事業費、備品費等は運営委員会で検討、承認を得て、適切に執行している。 当初の予定にない支出については、役員会や運営委員会で検討している。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルー

ルを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口当番が代表をはじめ運営委員に情報を共有し、市に連絡している。後日、運営委員会や窓口会にて報告している。 ➤ 窓口担当者は LINE を活用し、迅速に情報共有している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は年 2 回実施し、初期消火や通報訓練、利用者参加の避難誘導訓練を行っている。 ➤ 地域の情報交換会に参加している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 閉館時にチェック表に基づき、火気、施錠、停電等館内を確認している。 ➤ 開館中も 1 回は外回りの点検をしている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎年、担当を決めてデータで備品台帳を管理している。 ➤ 購入備品には備品シールを貼付している。

(2) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※現在、調整中

3. 吉祥寺南町コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】音楽や演劇等、様々な分野の利用団体がある。</p> <p>【工夫している点】音楽演奏等、音を発する団体同士が近くの部屋にならないよう、予約の段階で調整している。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】スタジオやホールがあるために、最近では演劇やダンス練習で若い人の利用が増えている。また、「親子ひろば」事業には、子育て世代の参加があり、麻雀クラブは、女性の参加者が多く人気になっている。</p> <p>【特筆すべき成果】若いお父さんを巻き込む工夫として、「パパひろば」を開催し、子どもを仲立ちに地域参加してもらう仕組みを作っている。また、お父さんたちが気後れしないよう、「パパひろば」のスタッフは男性が担っている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】スタジオやホールがあり、演劇やダンスをする利用者が増えている。</p> <p>【工夫している点】ホールは、以前は20名以上での使用に限定していたが、ニーズの変化により、半分の区画で少人数でも利用できるように変更した。また、学習室は人気が高く、季節によっては入りきれないほどの利用者が訪れるため、必要に応じてその他の会議室に学習室を拡大している。</p>
情報の提供	<p>【現状】地域の約6,200戸に対し、協力員の手配りでコミュニティニュースを配布しているが、協力員の高齢化もあり、負担は大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】利用者へ声掛けを行い、コミュニティニュースの配布を依頼している。また、協力員と運営委員は普段顔を合わす機会が少ないが、交流会を設けたことで、情報交換の機会も増え良い関係性を築けている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】南町文化祭は、各種の利用団体の発表交流の場となっているほか、地域住民がコミセンに来館してもらえるきっかけとなっている。</p> <p>【工夫している点】意見交換や情報共有を目的として、同じような活動団体（福祉や書道等）が交流できるよう、協議会がコーディネートしている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】「防災ネットワーク」では、各種団体が集まる機会となり地域のつながりが生まれている。武蔵野地区外環問題協議会は近隣協議会（吉祥寺東・本宿）とのネットワーク事業。その他、市議会議員との懇談会もネットワーク事業として行っている。</p> <p>【工夫している点】吉祥寺南病院が同じ街区の隣接地に移転する予定。同病院と連携し、院長を招いて講座を行うなど活発に活動している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】スタッフの入れ替わりは、コミュニティニュース等での公募をメインに維持している。</p> <p>【工夫している点】令和元年度より、「助っ人バンク」といって、スポット的に協力してくれる人員を募り、令和元年夏時点で4名の応募が得られている。また、個人的な人脈に頼らない人員確保のため、コミセン利用者に対する声掛けを行っている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】利用者のニーズや運営委員の負担を考慮し、精査を行っている。</p> <p>【工夫している点】適宜事業の見直しを行い、新しい利用者の増加につながるような、新規事業に取り組む体制を生み出している。</p> <p>【特筆すべき成果】南町カーニバルは協議会と商店街の事業で、過去に人手不足から廃止を検討したこともあるが、地域の人々（サッカークラブ・野球クラブの保護者など）から形を変えての継続を提案され、協力を得ながら工夫して継続している。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】運営委員＝窓口担当となると窓口業務に比重が偏ってしまうという課題がある。</p> <p>【工夫している点】窓口業務に携わらないフリーの役員の増員を検討している。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則は運営委員会で協議し、総会で提案し、承認を得ている。利用上の改善や対応策の確認は、連絡ノートにより情報把握を行い、役員会→窓口会→運営委員会の形で協議・共有している。 ➤ 利用者への周知は、コミュニティニュースの配布（地域の約 6,200 戸にポスティング。協力員の手配り）やホームページにより行っている。 ➤ できるだけ多くの方に利用してもらう利用条件とするために適宜見直しを行っているが、窓口会での周知徹底が難しい。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 一定期間(1年)保管後、シュレッダー処理している。
事業計画に沿った 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員会に提案の後、実行委員会及び窓口会議等で準備している。終了後は各段階で集約し、次年度の為、運営委員会で報告を行っている。 ➤ 原則運営委員＝窓口担当としており、事業も内向きになる傾向があるため、窓口業務に携わらないフリーの役員が俯瞰的に運営を見られる工夫をしている。

経費削減と予算の 適正な執行	➤ 執行側より運用上の相談・報告の形で、科目内での節約等もある。費用対効果は念頭に置いている。
------------------------------	---

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	➤ 緊急時は、委員長または副委員長に連絡し、その後、市民活動推進課に連絡することになっている。
防災・防犯	➤ 防災訓練・避難訓練は利用者懇談会と併せて年一回実施している。利用者にも参加してもらい、避難誘導訓練を行っている。 ➤ 消防庁による救命講習にて消火器や AED の使い方等を習い、救命技能認定証を取得した運営委員もいる。 ➤ 南町防災ネットワークに参加し、定期的に意見交換を行っている。 ➤ 防災倉庫の整理を行っている。
防火の管理	➤ 毎日の閉館前の火気点検・閉鎖障害点検などはチェック表に基づき実施している。
備品の管理	➤ 備品の適正な管理に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

4. 御殿山コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】年に1回、各サークルに案内を出し、各2名までの参加で利用者懇談会を行っている。</p> <p>【工夫している点】子育て世代の利用増加を目的として、市との共催事業である「親子ひろば」を開催している。「子どもルーム」などの自由に遊びまわれる部屋はなかったが、和室を代用することで開催が可能となった。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】健康麻雀の人气が高く、多くの参加者が集まっている。現状では、高齢者の利用が多く、高齢者向けの事業が多い。一方で、駅に近く立地条件が良いことから、若者の利用も増えつつあり、比較的地域外の人利用も多い。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】自由に出入り出来るオープンスペースというよりも、細かく会議室に区切られた作りになっている。一方で、中庭にウッドデッキがあり、人が集まるスペースとしての活用の余地がある。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミセンに関わる情報は、町会やマンションの掲示板に掲示し、各住宅には回覧板を通してお知らせしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】コミセンまつりでは、展示・芸能等の発表のほか、終了後、反省会や懇親会を行っている。</p> <p>【工夫している点】利用者間のつながりづくりのため、健康クラブの日程に合わせて、ロビーでミニカフェを開催しており、利用者がお茶やコーヒーを飲みながら交流することができている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】老人会や青少協、御殿山町会等の地域団体メンバーと運営委員が重複している。</p> <p>【工夫している点】地域団体と運営委員が重複しており、連携につながっている。また、防災訓練等、共通の目的に対し地域の諸団体と協力して取り組んでいる。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員の 人材充実	【現状】事業をきっかけにコミセンに来てくれた人と交流する場を設け、協議会運営に興味を持ってもらえるような取組みをしている。
持 続可能な事業の 実施	【現状】高齢者向けの事業が多いが、今後は子どもを対象とした事業を増やしていきたいと検討している。 【工夫している点】子どもに人気のあった事業で、「みんなで忍者」というものがあったが、主催団体の拠点移転に伴い、事業の継続が困難になったが、子どもを対象とした「コミセン親子ひろば」に新たに取組んだ。また、高齢者に向けた健康麻雀など、他にも新たな取組みを実施している。
活 発な協議会運営	【現状】若い世代の利用が増えている等、利用者の把握・分析をし、運営に関わる人を増やすための、次の取組みについて模索している。

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会 則や利用の決まり に沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎年一回、役員及び窓口担当者が見直している。 ➤ 問題提起に関わらず、運営委員会で報告し対処している。
個 人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 個人情報に関わる書類は、ロッカーに入れて保管している。 ➤ 様子を見ながら、受付簿は約一年後にはシュレッダーにかけて破棄している。
事 業計画に沿った 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員・協力委員で準備し、実施後は、反省会を設け次回に繋げている。
経 費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員で話し合い、前年度等の比較や経費削減に向けて意見が出たものを中心に執行している。 ➤ 新たな支出について役員会で話し合い、運営委員会で報告している。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 役員（会長、副会長）に連絡の上、市へ報告している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消防計画に基づき対応し、その後市へ報告している。 ➤ 毎年8月に、御殿山一丁目町会や福祉の会、老人会など地域団体と共に防災訓練を行っている。地域に日赤奉仕団の委員長がいるつながりで、日本赤十字社の看護師（救急隊員）の参加があり、アドバイスをもらっている。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消防計画表を掲示し周知徹底しているほか、管理責任者の指示の下、役員会でお知らせしている。 ➤ 窓口担当者が館内チェックシート（ガス・空調等）に基づき点検を行っている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品を購入又は廃棄の都度、部屋ごとに作成した備品台帳を更新している。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

5. 本町コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】吉祥寺駅が近くにあり、市内・市外の幅広い層が来館している施設である。1階のサロンスペースはどなたでも自由に会話ができる環境になっており、学習、小グループによる打ち合わせや趣味の活動だけでなく、駅周辺での所用途中の方や近隣に勤務する方が休憩場所として利用している。</p> <p>【工夫している点】利用者ニーズの変化を考慮し幅広い層の利用に対応できるよう、和室にも和室用可動式のテーブルと背もたれ椅子を置くなどして利用者の利便性向上を図っている。また、利用者がすぐに使えるよう、ポッドにお湯を常時用意している。</p>
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】近隣に集合住宅が増えている。より多くの方たちがコミセン利用をしてもらえるよう、新しい事業企画を検討している。</p> <p>【工夫している点】創立40周年にあたりコミセン周辺の歴史を振り返る「地域を知る会」を3回開催し、新しく地域に移り住んできた方々にも吉祥寺駅東部地区の環境浄化対策の一環としての成り立ちを伝えた。さらに、その内容をまとめた記念誌を発行・配布し、館内でも利用者・利用団体の方が閲覧できるようにしている。</p> <p>最大事業の「センター祭」では、同様に環境浄化対策の役割を持つ近隣の施設（吉祥寺図書館・吉祥寺シアター）と連携し、3施設の場所を巡るクイズラリーを開催した。</p> <p>【特筆すべき成果】クイズラリーを通じて、コミセン利用者だけでなく周辺に居住する方や地域を訪れる方々に地域の施設を知ってもらうきっかけづくりにつながった。</p>
施 設の利用方法の工夫	<p>【現状】エレベーターが無いために、2階・3階を利用できない団体は1階サロンを利用している。また、学習室が無いため、学習する人もサロンを利用している。</p> <p>【工夫している点】サロンの多様な使われ方に対応するために、テーブルを小型・軽量化したことで、利用人数を増やし、使い勝手を良くした。</p>
情 報の提供	<p>【現状】1階サロンで「むさしのFM」流すことで、地域の情報提供をするとともに、居心地の良い雰囲気づくりを心掛けている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり	<p>【現状】「センター祭」開催前には利用者説明会・懇談会を開催し顔合わせを行っている。「センター祭」ではコミセン主催教室の作品展示利用団体も参加した芸能発表等、利用者・利用団体の協力を得ながら開催している。</p> <p>【工夫している点】「センター祭」を吉祥寺東部地区まちづくり協議会との共催で行う「元気市」（周辺道路での出店やフリーマーケット）と同時開催し、街のイベントとして地域の方や団体と共に活動している。</p>
地域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】東日本大震災の際に、市からの要請で帰宅困難者の受け入れを行った。立地が吉祥寺駅近くであり地域の中での役割は大きい。また、東日本大震災を経験したことで地域の絆の重要性を認識し、絆づくりの一環として「まちをきれいに」というコミセン周辺の清掃美化活動を始めた。</p> <p>【工夫している点】東日本大震災の後、「まちをきれいに」を毎月第一日曜日午前9時からの定期開催にし、8年間継続している。清掃活動終了後は地域の情報交換を行い、参加者の交流を図っている。活動が知られてきたことで、参加者の幅が広がり、人数も増えてきている。。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】協議会の活動を知ってもらうため、引き続き広報活動をおこなっている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】毎年度講座を企画しているが、参加人数や人気度を見ながら精査している。</p> <p>【工夫している点】主催事業ではない講座でも、受講者から継続の要望があれば、協議会が引き続き事業化するといった取り組みをしており、地域ニーズの取り込みを行っている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】運営委員会等の参加者が一部の委員に固定化している。</p> <p>【工夫している点】運営委員会等の参加をしやすいするため、開催時間の見直しを行った。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員会で協議して決定する。臨時運営委員会を開催する場合もある。 ➤ 利用の決まりは窓口に掲示するなど、利用者への周知も行っている。
------------------------	--

個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 使用申請書は事務所内の鍵付き書庫に保管し、1年後にシュレッダーにかけて処分している。また、入館時に記入する氏名等の個票は2か月保存後にシュレッダー処分している
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各々の事業で、運営委員全員で担当を決めて実施している。 ➤ 実施後は担当別にまとめ、運営委員会で発表している。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 前年度の実績を考慮しながら各事業を計画的・効率的に行っている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設の故障等については、委員長に承認を得てから、修繕依頼書に記入して市へ連絡している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 避難経路を館内に掲示している。 ➤ 避難訓練では、避難誘導の仕方を確認している。 ➤ 地域防災の活動に参加・協力をしている。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 消防庁の優良防火対象物の審査を受け、優良防火対象物に認定されている。 ➤ 利用者の安心安全のため、救命技能講習会を開催し、運営委員は救命技能認定証を取得している。 ➤ 退館時のチェックは毎日実施しているものと、定期的（月1回）行っているものがあり、それぞれチェック表を保管している。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ エクセルで備品台帳をデータ化し、備品管理を行っている。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

6. 吉祥寺西コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】利用者懇談会を開催している。利用者懇談会では、コミセンの申込・予約方法、施設の問題などについて様々な意見交換がなされ、改善に向けた取り組みをしている。</p> <p>【工夫している点】コミセンを頻繁に使用する団体に対しては、予約時等に利用者懇談会への出席を依頼している。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】個人の利用を認めている、練習室やプレイルーム、サロンがあることで、楽器・ダンスの練習や2・3人の懇談等によく活用されている。プレイルームは、他市の利用者も多い。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】分館については、演劇練習や体操等、大きな音を発するような活動で利用されることが多い。</p> <p>【工夫している点】エントランスには園芸クラブで育てた鉢植えを置いて、来館者に四季を感じてもらっている。</p>
情報の提供	<p>【現状】「コミセンだより」を年5回発行し、地域のほぼ全戸に配布している。地域に8か所の掲示板を設置し、各事業のお知らせをしている。館内の壁面や掲示板を使って、協議会の歴史や地域団体の活動紹介を行っている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】地域懇談会を年2回開催している。</p> <p>【工夫している点】地域懇談会では毎回テーマを設定して、地域で活動する団体間で現状と課題の共有を図っている。</p> <p>【特筆すべき成果】地域懇談会での意見がきっかけとなり、「井ノ頭通り美化活動」などがスタートし、地域の方たちとともに現在も継続している。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】地域には子どもたちが遊べる場所が少なかったため、遊び場の提供として「あそぼうよ」という事業を始めた。</p> <p>【工夫している点】福祉の会をはじめ、共催事業を多く実施しており密接な関係を築いている。</p> <p>【特筆すべき成果】「あそぼうよ」は長年続いている事業で、一小と井之頭小の児童も参加し、学校と学年を超えた交流が生まれている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	【現状】協力員として70～80名が登録しているが、登録した協力員が皆参加できるとは限らない。コミセンだよりで募集をしているが、新たな担い手の獲得にはつながっていない。
持続可能な事業の 実施	【現状】年間を通して、継続的に週1回以上の事業を実施している。 【工夫している点】事業は多いが、大きな負担にならないよう担当が分かれている。また、利用者からのニーズや運営委員の実情を鑑みて、事業の精査を行っている。
活発な協議会運営	【現状】毎月、運営委員会・役員会・窓口担当者会議を開催している。窓口業務に関する事項を協議し、円滑・適切なコミセン運営を行っている。

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則や利用の決まりについて、不具合がある場合には役員会にて話し合い、その内容を運営委員会で討議し、改訂する。（監事の位置づけ、分館の利用区分の見直し等について今後検討していく）
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用申込書及び受付集計簿は、ファイリングし1年間保存する。その後事業ごみとして焼却処理をしている。（今後はシュレッダー処理を行う予定） ➤ 個票は1週間保存後、シュレッダーにかけている。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年初の事業計画に基づき、定例事業は実行委員会で検討し、実施している。 ➤ 各運営委員が担当する事業はアンケートに基づき割り振っている（運営委員は最低2つの事業を担当する）。 ➤ 運営委員会で前月の活動結果及び次月の予定を報告している。年度末に実行委員会の反省会を実施している。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 半期毎に実行委員会・事業費の執行状況を運営委員会に報告している。実行委員会毎に適正な執行が行われており、運営委員会で特別な意見はない。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口担当者および役員会にて重要課題が発生・確認された場合は、委員長から市へ連絡・報告をし、対応指示を仰いでいる。
------------------	--

防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎月、窓口担当者会議にて問題点の確認を行い、共有している。 ➤ 消防署職員による AED の使い方の講習会等、年 1 回、窓口担当者や当日利用者が参加する防災訓練を実施している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 避難経路の案内図を各部屋に貼付している。 ➤ 窓口担当者には避難誘導を指示している。 ➤ 日常点検として窓口担当者は給湯器など火元確認を行っている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品購入時、備品台帳簿に記載し備品シールを貼付して管理している。 ➤ 備品廃棄時に台帳から削除している。 ➤ 今年度は台帳の棚卸をしている。

(2) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※現在、調整中

7. 吉祥寺北コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】地域の団体にはロッカーや倉庫のスペースを提供している。</p> <p>【工夫している点】夏季の体育室は高温になりやすく、利用者へ声掛けや保冷剤を渡す等の対応を行っている。また、利用者からの意見を取り入れて、部屋の利用要件の改善も取り組んでいる。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】「北町さわやかまつり」は、コミセン利用者が主催側となり開催している。</p> <p>【工夫している点】「北町さわやかまつり」は過去のコミュニティ評価委員会報告を受けて、地域の諸団体も巻き込んで行っている。結果として、団体同士の交流が生まれている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】ロビーは貸出をしていないが、気軽に来館できるよう、行事として協議会主催で講演会やコンサート等を行っている。体育館を活用した「文化祭」では地域の小中学生による演奏会が行われている。</p> <p>【工夫している点】ロビーの一角をふれあいコーナーとし、その一部を作品展示スペースにして、保育園児や地域住民の作品を展示。徐々に作品を提供してくださる方が増えている。今後、作品展示を通じ、家族をはじめ、より多くの来館者を呼び込もうとしている。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミュニティ便りを毎月発行し、事業内容等をお知らせしている。</p> <p>【特筆すべき成果】「ルーマニアを知ろう」というテーマで地域フォーラムを開催した。地域住民へ本市の友好都市であるルーマニアを知ってもらおうという目的で、ルーマニア人のダニエル氏による産業や歴史、文化を紹介し、ワイン・料理によりルーマニアの魅力を感じ、ホストタウンの意味も理解した。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】「北町さわやかまつり」や「文化祭」終了後には反省会を行っている。</p> <p>【工夫している点】反省会を行ったことで、利用団体間で施設運営・利用に関する今後の課題について検討している。</p> <p>【特筆すべき成果】「北町さわやかまつり」の成果としては、各種の団体がコミセンのその他の行事等に参加してくれる割合が高まった。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】北コミ市場では、地元農家の協力により新鮮な野菜を提供している。15年以上続いている取組みで地域に定着している。</p> <p>【工夫している点】地域の方から寄贈されたグランドピアノを使って、地域の方へ音楽を楽しんでもらえるよう、演奏会を定期的に行っている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員が18名と少ないため、各運営委員の負担が大きい。各団体からの参加、個人的な口コミでの依頼などを試行している。</p> <p>【工夫している点】運営委員は北町の住民には限っておらず、八幡町や本町など他地域に在住の人も受け入れている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】「パソコン学習会」は19年の歴史があるが、運営する側も高齢になってきており、参加者数も減っている。基礎編と応用編に分けて実施しているが、今後中止するのか、形をかえて実施するか（スマートフォン研修など）検討している。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】若い運営委員が入ってきて、世代交代が進みつつある。</p> <p>【工夫している点】運営委員会を一部午前から夜間に変更し、日中仕事がある方も参加しやすく改善している。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員会にて毎回議論し、運営委員会で議決を経てルールとなる。 ➤ 決まったルールについては、窓口担当者会議等で徹底して情報共有をしている。 ➤ 利用者には、北コミュニティ便り、ホームページ、掲示板にて周知を行っている。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 申請書等の保存期限は保管規程を設け、定められた期限を過ぎたらシュレッダーで処理している。 ➤ 申請書等は、鍵のかかるロッカーで管理している。
事業計画に沿った 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年度計画における実施2か月前くらいに、運営委員会等で仕事分担等の打ち合わせを行う。 ➤ 文化祭は実行委員会を立ち上げ検討し、反省会も必ず実施している。 ➤ 事業内容については、参加団体からの意見もできる範囲で取り入れ、毎年少しずつ合理化する方向で変えている。
経費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 経費削減と予算の適正な執行に向けて、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口当番が、まず市へ連絡するとともに、代表・副代表に連絡する。 ➤ 一連のマニュアルは事務所に設置している。 ➤ 窓口担当者会議で情報共有するようにしている。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は年2回消防訓練を行い、利用者や地域の関係団体にも参加を呼び掛け、起震車を用いた訓練や放水訓練など、主に体験型の訓練を実施している。 ➤ 上記の訓練とは別に、窓口担当者向けに災害等を想定した実地訓練を行っている。 ➤ 防犯については、利用者の入口を原則正面玄関1か所に限定して、窓口担当者が確認できるようにしているほか、「あそべえ」や警察とも連携をとっている。無線訓練は窓口当番が対応している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎日の閉館前に火気点検、週1回の閉鎖障害点検を実施し、点検結果表も保管している。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品管理の担当者を設置している。 ➤ 備品台帳で管理し、変更があった都度更新をしている。

(2) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※現在、調整中

8. けやきコミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】施設の使い方等を、書面（掲示物）に頼らず説明している。</p> <p>【工夫している点】コミセン内での禁止事項記載の張り紙は極力少なくし、伝えたいことは言葉で伝え、会話を大切にしている。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】近隣に新たな住宅地ができているが、まだ利用者として巻き込めていない点が課題である。</p>
施設の使用方法の工夫	<p>【現状】施設が公園に隣接している。窓が広く、学習室に座っている人達も緑に囲まれて勉強するような雰囲気がある。ギャラリーがあり、絵や写真の発表会などを行うことができる。コミュニティルームがあり、だれでも自由にお茶を飲んだりお弁当を食べたりすることができ、一人で来ても心地よくいられる場所にしてある。窓口の作りが開放的で、仕切りをつくらずに利用者と一緒に話をしながら様々なことができるように空間を作っている。</p> <p>【工夫している点】設えの異なる2つのスペースを学習室として提供し、利用者はニーズに応じて使い方を選択できる。</p>
情報の提供	<p>【現状】年4回コミュニティニュースを発行して、地域にイベント等をお知らせしている。</p> <p>【工夫している点】施設の予約状況をホームページ上で公開している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】地域の諸団体には積極的に関わっている。</p> <p>【工夫している点】地域防災の会を立ち上げたり、福祉の会や大野田地域子ども館推進会議、青少協に運営委員から委員として選出し、その活動を運営委員会で共有したりしている。</p> <p>【特筆すべき成果】3年ほど前から利用者・利用団体に呼びかけ、文化祭・ミニコンサートを開催した。それぞれの活動内容を発表・交流することを通して、利用団体同士のつながりが生まれている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】障害者、高齢者の施設など、地域の多くの組織とつながりを持っている。一方で、幼稚園、保育園とのつながりはまだ薄い点が課題である。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員全員が係を担っている。</p> <p>【工夫している点】運営委員全員がそれぞれの適性に合った係を担うことで、やりがいを持って活動できている。</p> <p>【特筆すべき成果】一人ひとりの負担を小さくすることで、協議会運営に参加しやすく、運営委員数も多い。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】けやきまつり、けやき夏まつり、どんど焼きとむかしあそびの三大イベントでは、実行委員会制をとっている。</p> <p>【工夫している点】運営委員を3つのグループに分け実行委員会を立ち上げている。そのほかに130人程度いる協力員もスタッフとして入り、実行委員会準備をしている。</p> <p>【特筆すべき成果】実行委員会は20名程度いるため意見がぶつかることもあるが、話し合いをしながら作り上げる中でチームワークや協力体制ができて、最終的に組織のチームアップにつながっている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】「まちづくり局」というチームを設けている。個々のチームが様々なアイデアを出し合ってそれぞれプロジェクトを立ち上げている。</p> <p>【工夫している点】「まちづくり局」は運営委員が1人、合計3人以上いればチームとして成立し、活動をする上でのハードルを下げている。</p> <p>【特筆すべき成果】「まちづくり局」は新たに地域活動を行いたいと考えている人が自由に取組みを行える場になっている。そうした活躍の場を設けることで、やりがいを高め、運営委員への関心の拡大と定着の推進につなげている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年度末に内容を確認している。 ➤ 決まりにない事柄についてはその都度、代表委員、事務局、運営委員会で話し合い、公平な運営に努めている。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 申請書・受付台帳は第三者の目に触れないよう、事務室内には必ず窓口担当があり、無人状態を作らないようにしている。 ➤ 申請書は1年間キャビネットで保管し、シュレッダーで適切に破棄している。
事業計画に沿った 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全運営委員は三大事業のいずれかの事業の実行委員会に所属する。各事業の実行委員会で話し合い、企画・運営している。 ➤ 三大事業以外の文化企画やバス研修などは、希望者を募り実行委員会を立ち上げ、事業を企画・運営している。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 実行委員会から運営委員会で準備の進捗状況の共有、結果を報告している。 ➤ 事業によっては参加者にアンケートを依頼することもある。
経費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 主に事務局のメンバーが中心となって構成される予算委員会で予算案を立て、それに沿って活動をしている。事業費は事業ごとに予算を分配している。 ➤ 備品や修繕、前例のないものの購入に関しては運営委員会で承認を得て対応する。 ➤ 年度末に会計報告・予算案の承認を取っている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口で対応し、代表・事務局長に連絡し、並行して市へ報告している。 ➤ 緊急の場合は窓口から直接市へ報告し、同時に代表・事務局長にも伝えている。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災係（自主防災会に所属している運営委員を含む）が防災訓練を企画運営し、内容は代表委員会で検討している。 ➤ ここ数年は消防署、防災協会などの協力をいただき、年に1度訓練を行っている。煙体験訓練や消火器訓練など場面を想定した訓練を毎年実施している。 ➤ 無線訓練は窓口当番が対応している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防火担当者が消火器確認など行っている。 ➤ 運営委員で火災を想定した避難訓練も行っている。 ➤ 点検表をもとに窓口担当者が閉館時にガスの元栓等を確認している。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品係を置き、データで管理をしている。購入時と廃棄時に担当者に連絡をし、更新している。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

9. 中央コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】改修工事（2018年11月～2019年7月）に伴う中央コミセンの長期休館の影響で中町集会所への予約申し込みが集中し、早朝から並ぶ利用者が多かった。</p> <p>【工夫している点】中町集会所においては近隣住民への影響を鑑みて、運営委員会で協議を重ね、平成30年11月から、予約開始時間を午後からに変更した。変更にあたってしばらくの間、声掛けや掲示物での周知を行ったため、混乱なく変更ができた。なお、中央コミセンの改修工事が完了して申し込みが落ち着いたことと利用者の意向を踏まえ、令和2年度からは予約開始時間を元に戻している。</p>
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】地域行事に参加することで、地域の輪を広げている。大型館であり、また交通アクセスがよいこと、市外利用を認めていることから、市外も含めて多様な市民・地域団体が利用している。</p> <p>【工夫している点】来場者の多い「武蔵野桜まつり」に毎年協力し、協議会の活動を知ってもらうきっかけをつくっている。</p>
施 設の利用方法の工夫	<p>【現状】中央コミセン舞台付き大広間は、使い勝手が良く利用団体からは好評である。また、改修後は調理室、トイレともに明るく衛生的で使いやすくなった。利用者からはエレベーター設置の要望が出ている。中町集会所は三鷹駅に近く交通の便が良いため、他市からの利用者が多い。</p>
情 報の提供	<p>【現状】コミセンだよりを年4回、各5,200部発行している。</p> <p>【工夫している点】コミセンだよりでは、協議会・地域の情報、地域団体・イベント等の紹介をしている。また、地域の小学校へ子ども参加の事業のチラシ配布をお願いしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体と コミセンとのつながり づくり	<p>【現状】中央コミセンのロビーをミニギャラリーとして利用団体に貸し出している。</p> <p>【工夫している点】館内清掃では利用団体に呼びかけを行い、中央コミセン・中町集会所合わせて 80～100 名程度の参加がある。</p>
地域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】「夏まつり」「文化祭」「もちつき」は中央コミセンの 3 大イベントであり、中央コミセン正面にある第一中学校生徒の協力を得ている。「夏まつり」「文化祭」では、地域団体などに模擬店の出店を依頼している。そのほか、「文化祭」では地域の小中学校の児童・生徒及びデイケアセンター、利用団体の作品発表の場として、1 週間ほどロビーにて展示を行っている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員が不足している。当該エリアに新設されたマンション入居者にもまつり、文化祭、その他の事業に参加してもらい、コミセン理解から始める予定である。</p> <p>【工夫している点】コミセンが次世代につながるためには、小中学生に関わってもらうことが重要なので、小中学生向けの事業の充実（中コミキッズフェスタや流しそうめん等）を図っている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】これまで、ストレッチ教室以外の事業を中央コミセンで行っていたが、改修工事による 7 か月の休館をきっかけに、今年度は中町集会所でも事業を開催した。</p> <p>【工夫している点】中央コミセン・中町集会所と 2 つの施設がある利点を活かして、今後、両館を活用した事業を検討している。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】毎月一回の運営委員会を中心に、運営委員全員が協議会運営に真剣に携わっている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 全て運営委員会で協議、決定後、館内への掲示、コミセンだより、ホームページにて利用者への周知を行っている。 ➤ 平成 30 年度に中央コミセンを改修工事で休館した際、中町集会所への予約が集中し、近隣から苦情を受けたため、予約開始時間を午後に変更した。改修工事が終わったことと、利用者からも元に戻してほしいとの要望もあったことから、現在では元の時間に戻している。
------------------------	--

個人情報保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用者情報（氏名と住んでいるエリア程度の情報）は、館外持ち出し厳禁とし、保管期間（概ね1年）終了後シュレッダーで破棄している。 ➤ 学習室利用は登録制でカードを発行しているため、連絡先等も聞いている。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 協議会事業（夏まつり、文化祭、餅つき）に関しては役員会主導で行っている。地域事業部、青少年部は各部で企画立案し、役員会及び運営委員会に企画書を提出、承認を得た上で実行し、実施後は報告書を作成し、運営委員間での共有を図っている。報告書はファイリングし、運営委員がいつでも確認できるよう保管している。 ➤ 報告書や参加者のニーズを受け、次の事業企画に役立てている。 ➤ 広報部、総務部は廃止し、分割・分担して、運営委員全員が関わるような形に変えている。 ➤ 地域の他団体にも企画段階から入ってもらえないか検討している。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業では、参加者の満足度をあげるため、数量・種類の工夫をしている。 ➤ 可能な限り、市内事業者からの購入を行っている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 異常時対応は委員長（不在時は副委員長）が行っている。 ➤ 窓口担当者が即座に対応できるよう、連絡先・手順等の掲示は行っている。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年2回中央コミセンと中町集会所で、運営委員を対象に警察署員や消防署員を招き、防災訓練を行っている。 ➤ 中央コミセン、中町集会所それぞれの防火管理者を中心として訓練を企画・実施している。 ➤ 中央福祉の会や一中防災の会とも連携している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 窓口担当が変わる都度（1日3回）チェック表に記入している。 ➤ 調理室は、使用時以外は施錠し、使用後は都度元栓の確認をしている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 購入備品は、速やかに備品台帳へ記載する。廃棄の場合は日付を記入後廃棄品とし、定期的なチェックを行っている。

（2） 総括及び今後期待すること （評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

10. 西久保コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】窓口対応に関する取組みとして、2カ月に1回の頻度で窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】利用者の要望を反映して、休館日を月1日とした。また、利用者の利便性向上のため、電話による仮予約を可能とし、3日以内に窓口で本予約を受け付けている。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】多摩湖ナイトハイクやこども科学教室など、子ども向けの事業に力をいれていることから、子どもや若年層の利用が多くなっている。また、子育て関係の団体の利用が多いのが特徴である。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】夜間に大声や音の出る活動（演劇等）を行う団体がある。</p> <p>【工夫している点】利用時間帯や活動内容によって、合った部屋を案内（例夜間に大声や音の出る活動は地下の利用や音のセーブを依頼）している。</p>
情報の提供	<p>【現状】年4回、コミュニティだよりを発行している。</p> <p>【工夫している点】コミュニティだよりに協議会の主催事業やコミセンの利用案内（部屋ごとの使い方）を毎号掲載し、コミセンの周知をしている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】コミュニティだよりで利用団体の紹介を掲載している。</p> <p>親子ひろばの「西久保コミセンひろばピノキオ」など、市や他団体との共催事業を通して、その利用者間のつながりが生まれている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】「地元感謝祭」や「ふれあいまつり」などの大規模事業等について地域の様々な団体との共催で実施している。西久保コミセンが拠点となって、さまざまな団体が連携して事業を実施する体制ができている。</p> <p>【工夫している点】共催を実現するための工夫としては、毎年度の期初に、地域の各団体の代表が集まって、各団体の年間スケジュールを共有・調整する話し合いの場を設けている。そこで、イベントが被らないよう調整したり、共催の可能性について議論したりしている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員が高齢化する中で、運営側の人でが手薄になってきている。</p> <p>【工夫している点】運営委員の人数の拡大はすぐにはできないので、近年では事業を実施する際は基本的には他団体との共催事業とし、幅広い主体を巻き込んで事業を実現している。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】運営委員の高齢化も進む中で、「多摩湖ナイトハイク」など大規模事業の継続的な実施が体力的に難しくなっている。</p> <p>【工夫している点】関前コミセンと青少協の第5地区、関前南地区、五中のPTAの5団体で共催事業として実施しており、現在では、亜細亜大学の学生にもボランティアとして参加してもらっている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】協議会会則などの見直しを検討している。</p> <p>【工夫している点】役員の選任方法等の会則の見直しを検討するにあたり、参考とするため他の協議会にアンケートを実施した。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則に疑義や問題がある場合等、必要に応じて会則検討委員会が設置され、内容を検討する。変更する場合は役員会・運営委員会を経て住民総会で決定している。 ➤ 利用の決まりについては、窓口会議で検討され、大半は役員会で決定し、運営委員会で報告している。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 来館者の受付簿は、記入時は表紙で隠し、退室時に鍵のかかるロッカーに収納する。部屋の申請書は1年保管で同様に収納している。
事業計画に沿った 運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 前年末に翌年度の事業計画を立てる。事業の担当者は、事業部会の中で担当者を希望制で決める。事業を実施した当日のうちに担当者どうしで反省会をし、後日、運営委員会で報告している。 ➤ 年2回事業部会を開いて、全体の反省と来年の計画をたてる。
経費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 四半期ごとに役員会で執行率を示し、執行状況が適正か確認をする。案件に応じて相見積もりを行うなど、経費節減の工夫をしている（コピー機のリース代が月37,000円から17,000円に下がった）。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 異常内容により異なるが、適切な処置後、委員長から市民活動推進課に連絡する。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は最低年に1回は実施している。令和元年度は9月に地域団体（西久保1丁目会、西久保福祉の会、川路さんち）と共催で煙体験、初期消火、AED取扱応急処置を実施した。地域住民およびコミセン利用者に参加してもらっている。 ➤ 今後は地域の防災関係団体（避難所運営組織）とも連携していきたいが、一丁目の避難所が第五中学校、二丁目・三丁目の避難所が第五小学校と分かれているという課題はある。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 料理室利用の団体には専用チェック表で詳細をチェックする。 ➤ 防災訓練で、非常口、避難誘導、初期消火訓練を行う。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会計と総務の担当者が備品台帳に記載をしている。廃棄備品については更新されていない箇所があるので、今期に整理する事になっている。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

11. 緑町コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】午前9時30分から午後9時30分の開館時間だが、開館を待つ利用者がある一方で、夜間の利用者が少ない。</p> <p>【工夫している点】利用者の利用状況を鑑みて、開館時間を30分前倒した。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】世代を問わず、誰もが参加できるように「みんなの広場」という事業を実施している。</p> <p>【工夫している点】フラダンスや音楽鑑賞などテーマを決める時もあれば、テーマを決めず、自由に楽しめる場を用意し、気軽にコミセンを訪れるきっかけをつくっている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】エレベーターが設置されたことで、車いすの方でも2階が利用できるようになった。地域ふれあいまつりでも、エレベーターができたことで、展示物を2階に設置することができるようになった。</p> <p>【工夫している点】部屋の出入りを容易にするため、スロープを用意した。</p>
情報の提供	<p>【現状】コミセンだよりは担当の負担が大きく課題がある。</p> <p>【工夫している点】継続して情報発信をするために、掲載する情報量に応じて紙面の増減を柔軟に対応している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】地域ふれあいまつりでは、利用団体や地域の各団体に積極的に参加を呼びかけ、相互につながる機会をつくっている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】事業実施する上で、地域の様々な団体との連携に注力している。</p> <p>【工夫している点】地域ふれあいまつりでは、地域の保育園や高齢者施設による作品の展示などが行われている。また、青少協の協力を得て、子ども向けの事業（テニスコートを活用したイベント等）を実施している。また、第四中学校とのつながりについても防災訓練や卒業式・入学式へのコミセン委員の参加などがある。</p>

	<p>【特筆すべき成果】コミセンも参加して、町会や商店街など10団体程度の地域団体が集まって、地域課題について話し合う「緑懇話会」を実施している。過去には、地域の交通アクセスについて緑懇話会で話し合い、市とバス会社に要望し協議を進めることで、緑町2丁目のURと都営住宅間の道路整備と新たなバスルートの開通（平成24年）につながった。</p>
--	--

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】子どもまつりなどのイベント実施時に、大学生にボランティアで手伝ってもらっている。</p> <p>【工夫している点】いきなり運営委員になってもらうことは難しいため、まずは協力委員になっていただいた後に運営委員になってもらうなど段階的に人材を集めている。若い人の中には、地域ふれあいまつりで焼きそばを焼くなどのスポット的な関わりであればできるという人も多いことから、まずは協力委員として参加からはじめてもらっている。また、地域ふれあいまつりに来てくれた若い参加者にも声がけを行っている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】コミセンに来られない方にも協議会の事業を楽しんでもらうため、出前講座を開催している。</p> <p>【工夫している点】上記事業は、高齢者はコミセンまで行くのが大変であるという「地域懇談会」で出た意見を反映したものであり、コミセンを離れ、近隣の都営住宅の集会所で輪投げ大会や演奏会を開催し、地域に密着したコミュニティ活動を行っている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】毎月窓口会議を開催している。</p> <p>【工夫している点】気を付けることや、対応する上での疑問点などを話し合うことで、協議会全体で情報の共有や問題解決が適切にできている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<p>➤ 窓口対応等で何かあればノートに記入して情報を共有している。重要なものは運営委員会で協議している。運営委員のほとんどが窓口を担当しており、窓口会議と運営委員会を同日に連続して行っているため、円滑に情報を共有できる。</p>
個人情報の保護	<p>➤ 申請書は、コミセン事務室内キャビネットで保管している。</p> <p>➤ 受付簿は、1か月でシュレッダーにかけ廃棄している。</p>
事業計画に沿った運営	<p>➤ 毎年くじで3つのグループに分かれ、年間事業計画に沿って担当者を振り分ける（各グループ7名程度。副委員長が1名ずつ入る）。グループと実行委員会に分かれて事前打ち合わせから各準備まで実行し、結果は運営委</p>

	<p>員会で報告する。毎年グループが変わることで幅広く事業に関わることができる。「みんなの広場」は、グループごとに自由に企画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 年末に翌年度の事業計画をたてる際に、新規事業の提案や、既存事業の見直しを行っている。 ➤ 利用者への声掛けにより実現した事業がある。利用者の活動の発表の場を兼ねており、出演者・観客ともに好評である（フラダンス発表会、ジャズ演奏会など）。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業ごとに予算を立てて、計画通りに執行するように努力している。 ➤ 修理・備品購入などは運営委員会で話し合っている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 異常時発生時の窓口担当者が、市民活動推進課と委員長に連絡する。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練は毎年行っている。数年に一度、消防署立ち合いのもとで行い、助言をもらっている。 ➤ 防犯教室は、警察署の防犯課に講和を依頼し、年1回実施している（今年は新型コロナウイルス感染症防止のため順延）。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 連絡事項があれば、防火管理者が運営委員会で報告している。 ➤ 夜の窓口当番が、館内チェック表（施錠・ガス等）に基づき毎日点検を行っている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品台帳の記入漏れ等の見直しを今年度行う予定である。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

12. 八幡町コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】住宅街にあり、また、高校生などが勉強で利用することが多い。</p> <p>【工夫している点】多くの方に利用してもらうため、当日その時間帯に部屋が空いていれば、1名からでも申し込みを受け付けて2時間まで利用ができるようにしている。また、ホームページで予約状況が確認できるようになっている。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】子どもを対象にした事業を増やしている。それによって、保護者と子どもの利用が増えている。</p> <p>【工夫している点】子ども向けのクッキング教室を開催するなど、親子で楽しめる事業を展開している。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】2階ラウンジを学ぼうルーム利用者の一時休憩場所として、また、2人以下の事前予約ができない利用者が当日記名のみで利用できる場所としている。</p> <p>【工夫している点】学ぼうルームが満員になる時期は、空いている部屋を学ぼうルームとして開放、また、ロビー利用者の多い場合は机・椅子の数を増やしたり和室が空いていれば和室をロビーとして開放したりしている。</p>
情報の提供	<p>【現状】2カ月に1回コミセンだよりを発行、市報、ポスター(地域に15か所)、ホームページへ協議会の事業案内や地域行事等を情報発信している。</p> <p>【工夫している点】事業の内容により、千川小学校でのチラシ配布、千川小学校PTA便りへの掲載、千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信、青少協ホームページへの掲載、地域団体へのポスター・チラシの設置など、地域と連携を密にとり情報を発信している。</p> <p>【特筆すべき成果】マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体と コミセンとのつながりづくり	<p>【現状】新春のつどいやはちコミまつりでは、利用団体間の交流の機会になっている。また、利用者懇談会を開催し、コミュニティセンター利用にあたっての利用者ニーズの収集や利用者間の交流の促進を図っている。</p> <p>【工夫している点】新春のつどいやはちコミまつりでも、コミセンを利用している団体（21 団体）の活動内容を展示する機会を設けており、相互の活動について理解を深めるよい機会になっている。活動展示などを通して利用団体間の相互理解を高めている。その上で、利用団体間が連携して新たな事業ができないか、各利用団体のニーズを拾いながら、共催事業につなげるような工夫を取り入れている。</p>
地 域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】限られた運営委員の中で、新規事業を行うとしても一人ひとりの負担が非常に大きくなっている。</p> <p>【工夫している点】はちコミまつり等を実施するにあたり、千川小学校の PTA や子ども会、青少協等と共催としている。できるだけ地域の団体と共催をしていくことで、様々な事業が実施できている。</p> <p>地域団体への会議の出席だけでなく、特に千川地域福祉の会・千川地域防災会・青少協千川地区・千川小 P T A や、千川おやじーズとは積極的に交流を持ち、相互協力できる体制がとれるよう工夫している。また、都立武蔵野北高校に関しては、学校運営協議会や防災委員会に委員として参加して関係を構築している。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】仕事や子育てをしながら協議会運営に関われる体制を整えている。</p> <p>【工夫している点】特定の時間帯であれば協力できるという意見を尊重し、調整を行った。</p> <p>【特筆すべき成果】新しく運営委員が加入し、そのつながりにより、また運営委員が加入するといった良い流れができた。</p>
持 続可能な事業の 実施	<p>【現状】「歩こう会」「お出かけしよう」といったコミセン外での事業を企画し、特に親子、高齢者が気軽に地域や地域外に出向ける機会を創出している。</p> <p>【工夫している点】「歩こう会」は 20 年近く続いている事業であり、もともとは山登りなど自然をテーマにした企画が多かったが、最近では参加者のニーズを踏まえて、話題性が高く、人気のある施設もテーマに取り入れている。</p>
活 発な協議会運営	<p>【現状】多世代の運営委員が活動しているため、様々な考え方があるが、運営委員同士で話しあう機会を積極的に設け、ニーズの変化に対応した事業企画、施設運営を行っている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則等を改正する場合、検討委員会を設置し原案を作成する。その後、運営委員会で協議を重ね、住民総会での承認を得て改正している。総会後は総会報告書を作成し、コミセン窓口で配架するほか、改正後の会則や決算報告等総会報告書の一部を抜粋し、コミセン便りに掲載して地域に配布している。 ➤ 千川小 PTA と連携し、「マチコミ」というメーリングリストを活用し、小学生やその保護者にコミセン利用時のルール等をお知らせしている。 ➤ 決まりにない事例については、日誌を活用し協議会内で共有している。月 1 回の窓口会議で相談し、必要があれば運営委員会で協議する。窓口担当者が判断できない内容は保留とし、役員会で協議し利用者へ連絡する。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 施設使用申請書など個人情報の含まれる書類は、1 か月毎やナンバー順に整理し、鍵のかかるキャビネットで 1 年間保管。取り扱いについては、窓口会議で確認徹底している。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ すべての事業企画は、担当者が企画書を作成し運営委員会で内容を協議、承認を経て実施となる。 ➤ 実施後は担当者が報告書を作成し、直近の運営委員会で報告。事業ごとに良かった点・反省点・改善点等意見を交わし、次回実施の事業に活かしている。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 役員会で会計が進捗状況を報告し予算を管理している。日常的な消耗品以外の購入をするときは役員で話し合い、運営委員会で協議後購入している。 ➤ 支え合いステーション開設を想定した物品の購入を進めている。 ➤ 緊急性があるもので近々に運営委員会が行われない場合は、役員会で協議し購入後運営委員会で報告している。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 原則は、窓口担当者から委員長（連絡がつかない場合は他役員）に報告後、委員長もしくは窓口担当者より市民活動推進課へ報告する。 ➤ 緊急性の高いものについては、110 番・119 番・避難等を優先し、その後委員長へ連絡する。 ➤ 窓口担当者向けに、連絡の手順を示したマニュアルを作成し、ファイリン
--------------	--

	<p>グしている。また、事務室内にコミセンの住所や電話番号などを掲示し、咄嗟の時に対応できるようにしている。</p>
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年1回の協議会主催の防災訓練を実施している。想定する内容により、利用者へ協力を要請し避難等の訓練を行う。(例：AEDを使った訓練であれば運営委員を中心にしたメンバー構成) ➤ 千川地域社協・千川地域防災会と共催で、9月に「千川地域福祉まつり」実施、支え合いステーション物資受取訓練やその他の訓練に参加・協力。 ➤ 協定を結んでいる福祉施設「親の家」の防災訓練に参加し（協議会の防災訓練にも参加してもらう）入居者の避難訓練や消火訓練に参加している。 ➤ 防犯については、八幡町コミセン防犯パトロール隊が月1回午後7時から防犯パトロールを実施している。 ➤ 運営委員・協力員研修で、防災関係の施設を見学し、防災に対する意識を高めている。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 日々の管理は、窓口担当者が部屋利用終了時や巡回時に点検する。 ➤ 夜当番が自主検査表に基づき項目ごとに点検をする。利用後は利用者による点検をお願いしているが、窓口担当者も利用毎に確認している。 ➤ 防火管理者が避難訓練のプランを立て各所へ連絡。防災訓練時に消火訓練に参加。 ➤ 日々の問題点等は日誌で共有するほか、窓口会議・運営委員会で協議する。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 書記担当者が支出書をもとに備品台帳を作成し、年1回更新している。 ➤ 独自に備品シール（購入年月日、備品番号などを記入）を作成、貼付している。 ➤ 日々の管理は窓口担当者が点検し、簡単なもの（ねじが外れた等）は修理する。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

13. 関前コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】新たに運営委員を中心に「ガーデニングチーム」を立ち上げ、花壇の整備や草花の植え付けを行い、利用者の憩いの場となるようにしている。</p> <p>【工夫している点】剪定箇所や水やり等、経験豊富な参加者によるワンポイントアドバイスをを行っている。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】日頃から音楽室を利用し楽器の練習等をしている人たちの発表の場として関前ミュージックフェスティバルを開催している。</p> <p>【工夫している点】以前コミセンまつりの中で「カラオケ大会」を実施していたが、音楽室利用者のコーラス・ウクレレ・ピアノ・ギター等幅広いジャンルと幅広い年齢層の方が、参加できる催し物にした。</p> <p>【特筆すべき成果】地域の音楽を楽しまれる方たちにも毎年声かけをすることで参加者の輪が少しずつ広がり、多くの利用者と地域の皆さんとが交流する一日になってきている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】分館では、福祉の会主催の麻雀教室・囲碁教室、市の不老体操などが定期的に開催されている。</p> <p>【工夫している点】調理室がないので、できるだけ火を使用しないでできるメニューを設定し、巻き寿司と簡単おつまみなど、湯沸室等と電子レンジを利用して「男子の料理教室」を実施している。</p>
情報の提供	<p>【現状】ホームページを見やすくするためリニューアルを行った。</p> <p>【工夫している点】サイト全体のメニュー一覧を常に画面上位に表示させる、トピックスごとにエリア分けをするなど、必要な情報の取得が容易になるような構造とした。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】「コミセンまつり」では、コミセン利用者が一堂に会し、交流する機会になっている。縁日や展示についても、運営委員・協力員や地域の多くの団体と協力しながら行っている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】地域のお祭りである「関前八幡まつり」では、協議会に加えて、関前南小学校 PTA や青少協、福祉の会など計6団体が連携して花火大会を開催している。実行委員会形式で実施しており、これらの取組みを通して、団体間の顔の見える関係性の構築につながっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】若い世代（50代以下）の運営委員の募集に力を入れている。</p> <p>【工夫している点】他のコミセンと比較して、運営委員になる要件を緩和している。すべての会議に出席することを運営委員の要件にしてしまうと若い世代の参加が難しいので、「運営委員会やコミセン行事に年2回以上出席すること」という要件にとどめている。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】コミセンまつりで小学生による吹奏楽演奏を行ったことで、PTAの方たちの協力も得られている。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】窓口担当者会議を定期的に開催し、窓口対応力の向上と情報共有をおこなっている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに 沿った公平な運営	<p>➤ 窓口会議や役員会で検討し、運営委員会で決めている。</p>
個人情報の保護	<p>➤ 書庫に1年保存し、その後シュレッダー処理している。</p>
事業計画に沿った 運営	<p>➤ 事業終了後、担当者が事業報告書を作成し、運営委員会で報告している。</p>
経費削減と予算の 適正な執行	<p>➤ 新規事業を行う際は、運営委員会で諮って予算化している。</p>

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への 連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 速やかに市へ連絡後、委員長へ連絡し、窓口用の連絡ノートに記入している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 年1回消防署に来てもらい、利用者も含めて防災訓練（AED や消火器の使い方など）を実施している。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練の参加を促し、その報告を運営委員会で周知している。 ➤ 夜の窓口当番が、館内チェック表（施錠・ガス等）に基づき毎日点検を行っている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品の新規購入や廃棄の際には、適宜備品台帳に記載をしている。 ➤ 備品シールでの管理もできている。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

14. 西部コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】体育室をより利用しやすくするため、予約可能人数の変更を検討している。</p> <p>【工夫している点】予約可能人数の変更による有効性を検証するため、試験運用を行った（予約できる最少人数を4名から2名に変更したが、特段の効果・反響はなかったため元の4人に戻している）。</p>
新しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】今後の課題として、地域の子どもの利用増加が挙げられる。桜野小学校は900人を超える大規模校であるため、そうした地域の子どもたちが利用しやすい環境づくりが必要である点が課題として認識されている。</p>
施設の利用方法の工夫	<p>【現状】体育室利用時の熱中症対策として、隣接する部屋を涼しくし、休憩場所として開放している。</p>
情報の提供	<p>【現状】協議会公式のアカウントを作成し、SNSと広報紙等、多様な方法で情報を発信している。</p> <p>【工夫している点】SNSを用いることで、即時性を持って地域情報を発信できている。</p> <p>【特筆すべき成果】SNSを通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とつながりが生まれている。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	<p>【現状】コミセンまつり・文化祭は利用団体が一同に会する機会であり、利用団体の交流が生まれ、顔の見える関係性の構築につながっている。</p> <p>【工夫している点】近年では文化祭に出展・出演するサークルの数が減少していたが、サークルの展示・発表の場だけではなく、はんこ作りや絵葉書作りといった参加・体験型イベントを企画するなどの工夫を行った。これによって、地域住民の参加も増えている。</p>
地域とコミセンのつながりづくり	<p>【現状】地域防災については、桜野地域防災ネットワークがあり、コミセンもそのメンバーになっている。桜野小学校の避難所運営組織とも連携体制を構築している。</p> <p>地域社協や青少協の運営委員にコミセンの委員が加わり、年数回の会議を通して情報交換を行っているほか、コミセンまつりの手伝い・出店等への協力を得ている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員を対象として研修会を開催した。</p> <p>【工夫している点】講師を招き「地域活動を活性化するための話し合いのコツを学ぶ」をテーマとした学びの場を設けた。</p>
持続可能な事業の 実施	<p>【現状】「ちびっこ運動会」という未就学児を対象とした運動会を開催している。</p> <p>【工夫している点】近隣の小学生や大学生等にも協力を呼びかけ、多くの方の協力を得ながら事業を実施している。また、中高生のボランティア協力を得るため、市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」の活用を検討している。</p>
活発な協議会運営	<p>【現状】若い世代の運営委員が増加している。</p> <p>【工夫している点】若い世代の運営委員が増えたことで、働いている人や専業主婦などライフスタイルがそれぞれ大きく異なるメンバー構成になっている。そこで、協議会の定例会は、月ごとに午前の時間（子育て中の方も参加可能な時間）と夜間の時間（働いている人も参加可能な時間）を交互に開催するなどの工夫を行っている。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 「会則」と「運営要項」、「利用について」の内容は役員会で話したのち運営委員会で提案し、協議している。令和元年度は「利用について」は数回改正をし、「会則」は住民総会での承認を得て1回改正した。 ➤ 決まりにないことは、「利用について」は役員会で検討し、「会則」・「運営要項」についてはどのように扱うか規定がないため、その都度運営委員会などで協議している。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 保存期間を決めてキャビネットで保管し、期間後はシュレッダーにかけて廃棄している。保存期間は誰でも確認できるように、キャビネットの扉の裏に貼ってある。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 翌年度に向け年末頃に新規事業の提案や既存事業の精査を行っている。 ➤ 個々の事業については担当者同士で話し合い、その内容を運営委員会で検討する。実施後は運営委員会にて報告する。また、住民総会でも事業報告をしている。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 金額に応じて、会計担当権限で執行できるもの（1万円まで）、役員会の承認を必要とするもの（1万円～3万円）、運営委員会の承認を必要とするもの（3万円以上）に分けて適切に執行している。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルー

ルを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 随時窓口担当者または会長から市に報告している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 専門部会として防災部会をおいている。 ➤ 年2回の防災訓練(館内で訓練1回・バス研修1回)を行っている。館内の防災訓練に消防団が立ち会う時もあり、施設を知ってもらう意味でも有意義である。窓口担当者の全員は参加できていないため、参加率の向上が課題である。 ➤ 普段、使っていない部屋は常に施錠している。 ➤ 地域支え合いステーションとして、情報発信・物資供給の拠点としてのあり方も検討が必要だと感じている。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 防災訓練時の設備研修で設備の説明と消火器の点検を行っている。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品台帳は令和元年度より作成・整理を始めている。

(2) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※現在、調整中

15. 境南コミュニティ協議会

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利 用者への配慮と適切な対応	<p>【現状】体育室は多くの利用があり、卓球やバドミントン等、様々な活動が行われている。</p> <p>【工夫している点】体育室は混雑時には2時間を目安にした利用をお願いしている。熱中症防止のため、体育館内の温度計・湿度計で、適宜温度と湿度を確認し、暑さ指数（WBGT 値）が30度以上になると利用を控えてもらっている。</p>
新 しい利用者・利用団体の増加	<p>【現状】「モーニングハイク」事業では、より多くの人に関心を持ってもらえるような場所を検討し、選出している。ただ行くだけではなく、その場所で子どもが遊べるかといった点にも留意し、新たな人の参加を企図している。</p> <p>【工夫している点】体育室があることから、「スポーツ委員会」というものを設け、スポーツ関連団体から1名ずつ出してもらっている。各団体が企画・運営側に回り、一般利用者を対象としたスポーツデーを開催した。</p>
施 設の利用方法の工夫	<p>【現状】体育室は、夏場は気温が上昇するため、特に高齢者などは熱中症に気を付ける必要があり、15分ごとに気温を測定し記録をするとともに適宜注意喚起を行っている。</p>
情 報の提供	<p>【現状】ホームページに施設予約状況を公開している。</p> <p>【工夫している点】ホームページに地域の風景等を撮影した写真を多く掲載し、効果的に地域の紹介をしている。また、周年記念誌をホームページで公開し、協議会活動や歴史を広く情報提供している。</p>

② 地域におけるネットワーク機能

利 用者・利用団体と コミセンとのつなが りづくり	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、地元について新たな発見があると好評で、小さな班で出かけるため、全く知らない人同士の交流が生まれる点が特徴である。また、「ママのための健康講座と親子 de 体操（6 カ月から1歳未満の子どもを対象）」や「くまのこひろば（0 から3歳未満の子どもを対象、絵本の読み聞かせ等）」など、乳幼児向けの事業を多く実施している。</p> <p>【工夫している点】子どもの成長に応じた事業を実施していることで、継続的に関わりを持てている。</p>
地 域とコミセンの つながりづくり	<p>【現状】地域の各種団体から、コミセンの運営委員を選出しており、運営委員会そのものが地域団体のつながりを生む場所になっている。また、コミセン独自で自主防災担当を決め、境南地域防災会の一員として3～4人が会議・訓練に参加している。境南地域社協と武蔵野赤十字在宅介護・地域包括支援センターと連携して、認知症のささえあい、一人住まいの方々の見守りにも参加している。</p> <p>【工夫している点】協議会のOB・OGが立ち上げた境南盆踊り実行委員会に協議会が入り、境南盆踊り大会を開催している。実行委員会の呼びかけによって、企業や老人会等、多くの地域団体が関わっている。</p>

③ 持続可能な協議会の運営

運 営委員・協力員の 人材充実	<p>【現状】運営委員は、地域の各種団体から選出してもらう形で確保している。ただし、担い手の高齢化は課題ではあるが、スポット的にPTAや支部社協の協力が得られている。</p>
持 続可能な事業の 実施	<p>【現状】「モーニングハイク」事業は、毎年新役員が担当となっており、事業の次世代への引継ぎや新役員の地域へのお披露目が企画されている。また、運営委員は、「広報部」「青少年部」「成人活動部」「地域対策部」といった5つの部のどれかに所属することになっており、それぞれに役割・裁量を与えている。どの部に所属するかは、希望も踏まえるが、最終的な調整は役員が行っている。</p> <p>【工夫している点】5つの部には部長がおり、彼らの主体的な行動が増えている。事業の企画などを各部に任せることで、毎月の運営委員会での提案・報告が活発に行われている。</p>
活 発な協議会運営	<p>【現状】協議会会則を見直し、実現はしなかったが改定案を住民総会に提出する等、より良い協議会運営ができるよう工夫している。</p>

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コミュニティの促進を中心に考え、重要事項は運営委員会、住民総会に諮る。 ➤ 役員の任期などについて、昨年度から会則改定の検討が続いている。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ （保管方法）事務室内のカギのかかるロッカーに保管し、使用後はシュレッダー処分。PC はパスワード設定をしている。申請書は1年保管している。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ コミセン全体の事業（文化祭など）は実行委員会を立ち上げ、準備をしている。 ➤ 実施後、良かった点、反省点を部会や担当者間で話し合い、運営委員会で口頭や資料配布により報告している。 ➤ 成人活動部は老人会が中心に、子ども部会は PTA が中心に、など役割分担をしている。担当を希望する部会に任意で入ることもできる。
経費削減と予算の適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 毎月運営委員会で執行状況を報告している。大きな支出や例外的な支出については事前に話し合いをしている。

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<p>異常時に市への連絡・報告が迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 特にルールは設けていないが、緊急連絡先の資料を共有し、事態に応じて、設備保守業者や協議会役員、市へ連絡している。連絡先は窓口担当者が分かるように共有できている。
防災・防犯	<p>防災・防犯について、緊急時において迅速に対応できるよう適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 近隣の防災公園で機器の点検を実施している。 ➤ 避難訓練は、予告をしたうえで、利用者を交えながら、小規模な訓練を実施している。 ➤ 防犯は戸締りをしっかり行っている。無線訓練は窓口当番が対応している。

防 火の管理	防火の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ➤ 閉館時に窓口担当者がガスの元栓などの確認を行っている。巡回点検リストを作成して、チェックしている。 ➤ 毎月防火管理者が点検結果を確認している。
備 品の管理	備品の管理について、適切な体制と管理ルールを設け、運用している。具体的には以下の通りである。 ➤ 備品購入ごとに備品台帳に登録しており、現在再点検をしている。 ➤ 事業実施の際に備品数の確認・点検を実施している。 ➤ 今後予定している大規模改修工事の後には、事務室内のレイアウトが変更される予定のため、窓口担当者に対応できるように書類や文具等の収納場所一覧表を作成している。

(2) 総括及び今後期待すること (評価委員会よりコメント)

※現在、調整中

16. 桜堤コミュニティセンター

(1) 評価項目別の評価結果一覧

① 運営の工夫・利用者（住民）の満足度の向上

利用者への配慮と適切な対応	【現状】卓球セットやオセロ、トランプ等の貸し出しを行い、気軽にコミセンに来て楽しめるようにしている。
新しい利用者・利用団体の増加	【現状】子どもから高齢者までが一緒にチームを作り、世代間交流が生まれている。子どもと大人の輪投げ大会・ポッチャ大会を実施している。
施設の利用方法の工夫	【現状】多くの人が一室に集まれる部屋がない。 【工夫している点】隣接する上水北公園も活用することで、「夏まつり」や「星の観望会」など多くの方が集まる事業の実施ができています。
情報の提供	【現状】イベント情報やお知らせ等を掲載している会報を3カ月に1度発行している。

② 地域におけるネットワーク機能

利用者・利用団体とコミセンとのつながりづくり	【現状】利用者懇談会を年1回開催し、利用団体同士の交流、また利用団体と地域のつながりの創出に取り組んでいる。 【工夫している点】未就学児の親子を対象としている桜堤児童館との連携事業「親子広場（子育てについての情報交換等）」の参加者に、「よみきかせ」への参加も呼びかけるなど、継続的なつながりづくりが意識されている。「よみきかせ」の終了後も幼児室にて、参加者同士の交流が促進されている。
地域とコミセンのつながりづくり	【現状】子どもと大人の輪投げ大会、ポッチャ大会、利用者懇談会、お餅つき、夏祭りなど、地域団体と連携して事業を実施している。例えば子どもと大人の輪投げ大会は、地域の高齢者団体との共催で実施しており、地域のケアセンターからの参加もある。また、ケアセンターと共催で介護予防の講習会を実施している。小さなコミセンだからこそ、地域団体の力を借りなければ事業実施が難しい点が、結果としてつながりを生んでいる。 【工夫している点】ポッチャ大会の練習場所として地域の学校の体育館を借りることがあるほか、協議会から桜野小学校の子ども館推進会議委員に人を出すなど、学校とのつながりづくりに取り組んでいる。また、地域団体とは、各団体の代表者と密に連絡を取っているほか、事業実施に向けては各団体に協力依頼をして準備会にも出席してもらい、団体同士のつながりをつくっている。

③ 持続可能な協議会の運営

運営委員・協力員の 人材充実	【現状】運営委員の入れ替わりはあまり多くなく、高齢化も進んでいるため若い世代の参加を得ることが課題となっている。そのような状況の中でも、2019年度は3名の新しい運営委員が参加している。若い人や新しい運営委員の参加で新しい事業や意見が進められて変化が表れている。市境という立地条件のため、他市の利用者から運営委員として活動している方もいる。
持続可能な事業の 実施	【現状】「天体観望会」という事業は講師の都合により継続が困難になったが、利用者からの継続を望む声が多く寄せられていた。 【工夫している点】「天体観望会」を継続するため、野外活動センターへ相談し、新たな講師の紹介を受けて、現在も事業を実施できている。
活発な協議会運営	【現状】協議会主催のサークルを3つもっている。 【工夫している点】サークルは囲碁同好会（桜碁会）、カラオケ同好会、絵手紙（みどりの会）があり、定期的に活動している。

④ 適正な運営

「④適正な運営」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

会則や利用の決まりに沿った公平な運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 会則や利用の決まりは、運営委員全員に配布し、月1回開催する運営委員会及び年2回開催する窓口担当者会議で適宜内容を確認している。 ➤ コミセンの目的に沿って適切に対応できるよう作成した「窓口業務マニュアル」に沿って、窓口担当者が適宜判断している。 ➤ 判断に困る事案については、会長や役員に相談して対応しているほか、必要に応じて役員会・運営委員会で協議のうえ対応している。
個人情報の保護	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 使用申請書は月毎にファイリングし、専用キャビネットにて1年間分保管後、来館者名簿は月毎にファイルし、専用キャビネットにて3か月保管後、シュレッダーで処分をしている。 ➤ 現在「来館者名簿」はリスト式で、記入済みの欄を目隠しするよう工夫しているが、管理を簡素化するため個票にすることを検討している。
事業計画に沿った運営	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 運営委員会で各事業の担当者を選任し、企画運営を行っている。 ➤ 「夏祭り」や「文化祭」等の大規模行事では「実行委員会」を組織し、企画運営を行っている。 ➤ 事業実施後は、直近の運営委員会で、担当者及び参加者からの評価・反省点を共有している。 ➤ 大規模行事実施後は、運営委員や協力員のほか、青少協・桜堤ケアハウス・郵便局など協力団体の関係者を対象として反省会及びアンケートを実施し、成果と反省を共有している。また、前年度のアンケート結果を踏まえて事業計画を立てている。 ➤ 事業によっては同じ運営委員が長期にわたり担当することがある。

経費削減と予算の 適正な執行	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 担当者が前年度類似事業を参考に事業内容及び予算を提案する。運営委員会で検討し、会計が主体となり配分を決定している。 ➤ 担当者は配分された予算は、役員や担当者間など複数人で確認のうえ適切に執行している。 ➤ 消耗品購入時や備品購入時は、役員及び使用者が、品質・価格・メーカーを比較したうえで選定している。
-------------------	--

⑤ 施設・設備の管理

「⑤施設・設備の管理」の各評価項目について、当該コミュニティ協議会では、適切な体制と管理ルールを設け、運用していることを確認した。具体的な取組内容は下記の通りである。

異常時の市への連絡・報告	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 市への連絡先や業者の連絡先が窓口担当者にわかるよう「委託契約一覧表」を管理室内に掲示している。 ➤ 異常事態発生時は、市役所「市民活動推進課」へ連絡、対応指示を受けている。 ➤ 休日や緊急時は直接業者に連絡、市役所には遅滞なく報告している。
防災・防犯	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用者に避難経路等を理解し避難してもらえるよう、年1回開催する「利用者懇談会」の後に防災訓練を設定し、利用者の訓練参加を促進している。訓練では避難経路の確認のほか、消火器の有効期限・配置・掲示板を確認している。 ➤ 「防犯協会」が発信している防犯情報を窓口連絡簿に記載し、運営委員会で共有している。 ➤ 最終退場者が戸締り、チェックシートの管理、夜間休館時警備をセットしている。 ➤ 運営委員の中には自主防災会や消防団に所属して専門知識を持っている方が複数人いる。
防火の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 選任防火管理者を住民総会や運営委員会で報告・紹介している。 ➤ 防災訓練では、消火器の使用訓練を実施している。 ➤ 最終退場者がガスの元栓閉め、電気の消灯確認等、チェックシートに基づき施設管理している。
備品の管理	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 備品購入ごとに備品台帳に登録している。 ➤ 事業実施の際に備品数の確認・点検を実施している。 ➤ 工事により事務室内のレイアウトが変更されていたため、窓口担当者が対応できるように書類や文具等の収納場所一覧表を作成した。 ➤ 今後は備品に備品シールを貼って管理を行うことを予定している。

(2) 総括及び今後期待すること（評価委員会よりコメント）

※現在、調整中

第4章 総評

1. 協議会運営全般について

(1) 情報の発信

① 現状に対する評価について

- ・ 利用者・利用団体の増加や地域コミュニティとのつながりの創出において、情報発信の重要性がこれまで以上に高まっている。
- ・ そうした状況の中で、各コミセンでは、コミセン便り（ニュース）の発行やウェブサイトの構築などに積極的に取り組んできた。
- ・ 例えば、コミセン便りについては、いずれのコミュニティ協議会においても、定期的に各種イベントや利用団体の活動状況等に関するチラシを発行している。そのなかには、コミュニティセンターに関する情報だけではなく、地域の様々な情報なども含めてコミュニティ全体の情報誌としての役割を果たすようなものもある。また、一部のコミュニティセンターでは、コミセン便りの全戸配布を行ったり、「マチコミ」¹に情報を配信したりするなど、情報発信を通して、地域とのつながりの創出・拡大につなげている例がみられる。
- ・ また、ウェブサイトの構築についても、令和 2 年度時点ですべてのコミュニティ協議会で専用のホームページを設けている。このように、コミセン便り以外の異なる情報発信のチャンネルを拡大してきている。
- ・ さらに、近年では、SNS(Twitter など)を活用した情報発信を行っているコミュニティセンターもあり、より幅広い市民に対して積極的に情報発信を行っている例がみられる。
- ・ 一方、課題としては、コミセン便りの作成・配布やウェブサイトの運用などについて、対応可能な運営委員・協力委員の人手が足りていない点や、一部の運営委員・協力委員などに負担が集中している点などが挙げられる。また、SNS をはじめ新たな媒体での発信を行う上でのノウハウのコミセン間での共有・蓄積も課題になっている。

【委員会で議論が必要な点】

- ・ 「現状」に対する評価について、上記以外に着目すべき「コミセンの取組み」や「直面している課題」を検討。

¹ 一部の市内小学校・中学校にて導入されているメール連絡網サービス（運営主体：ドリームエリア株式会社）<https://www.dreamarea.com/>

図表 6 「情報発信」に関する取組み例①

コミュニティセンター便りの掲載内容の充実（吉祥寺東コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域に関心を持ってもらうために、コミセンの行事に関する情報だけではなく、地域・まちの情報やニュース、吉祥寺東町在住や、ゆかりのある方を「九浦の家だより」で紹介している。 ・ コミセンの情報について、地域の掲示板への掲載に加えて、地域内の約 6900 戸への全戸配布を行っている。 	写真

図表 7 「情報発信」に関する取組み例②

「マチコミ」の利用による情報の発信（八幡町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 千川小学校保護者が登録している「マチコミ」のメール配信を利用して情報発信を行っている。 ・ マチコミ利用で保護者に直接情報が届き、今まで利用したことのない層の方が事業に参加するなど、コミセン運営に興味を持ち運営委員の加入につながった。 	写真

図表 8 「情報発信」に関する取組み例③

SNS（Twitter）の活用による情報の発信（西部コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会公式の Twitter アカウントを作成し、SNS と広報紙等、多様な方法で情報を発信している。SNS を用いることで、即時性を持って地域情報を発信できている。 ・ SNS を通して、武蔵野市内で市民活動を行っている団体・個人とつながりが生まれている。 	写真

② 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会の議論を踏まえて記載予定）

【委員会で議論が必要な点】

- ・ 上述の「現状」を受けて、「情報発信」に関し、今後のコミュニティ協議会の目指すべき方向性について、提言を検討。

(2) 人材の確保・育成**① 現状に対する評価について****1) 人材の確保について**

- ・ 多くのコミセンにおいて、コミュニティ協議会の運営委員の高齢化や、人員不足が課題に挙げられている。
- ・ 担い手の確保に向けては、「コミセンだより」等で人員を募るほか、個人的な声掛けが行われているものの、十分に新しいメンバーが加わっているとは言い難い。
- ・ ただし、このような状況の中でも、運営委員だけではなく協力員の力を借りたり、利用団体・地域諸団体と連携したりすることで、効率的に事業を行い、運営委員の負担軽減に取り組んでいる例が複数みられる。
- ・ 利用団体・地域諸団体を協議会運営に巻き込む工夫としては、事業をきっかけにコミセンに来てくれた人と交流する場を設ける（利用者懇談会等）、地域諸団体からコミセンの運営委員を選出するといった取組みがみられる。
- ・ また、運営委員として参画するハードルを下げる工夫としては、「単発的な活動を行う協力員としてスタートしてもらう」、「運営委員の要件（会議や事業への出席回数）を緩和する」等の取組みがみられる。

2) 人材の育成について

- ・ コミュニティ協議会の運営委員の高齢化・人員不足といった課題と関連して、既存のメンバーや新たな参画メンバーのスキルアップも重要な課題となっている。
- ・ 運営委員らを協議会運営に巻き込む工夫としては、「多様なライフスタイルのメンバーができるだけ参加できるよう、定例会を午前中と夜間の時間で交互に開催する」、「自己点検・評価表は運営委員の相違によって作成する」、「協議会会則の見直しのためにアンケートを実施した」など、負担ややりがいの一部の運営委員にのみ偏らないような取組みがみられる。
- ・ また、運営委員らのモチベーションを高める工夫としては、「運営委員・協力員をチーム分けし、各チームで主体的に事業提案等を行う」「各事業で実行委員会を立ち上げ、事業実施に向けてチームアップを行う」「運営委員全員がテーマ別組織（部）のいずれかに所属し、それぞれに役割と裁量を与えている」など、活躍の場を設けることで、運営委員としてのやりがいの醸成や、関心の拡大につながるような取組みがみられる。

【委員会で議論が必要な点】 「現状」に対する評価について、上記以外に着目すべき「コミセンの取組み」や「直面している課題」について検討。

図表 9 「人材の確保・育成」に関する取組み例①

「助っ人バンク」（吉祥寺南町コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度より、「助っ人バンク」といって、スポット的に協力してくれる人員を広く市民から募っている。令和頑年夏時点で4名の応募が得られている。 ・ 個人的な人脈に頼らない人員確保の取組みの一つである。 	写真

図表 10 「人材の確保・育成」に関する取組み例②

「武蔵野市青少年リーダー」（西部コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 近隣の小学生や大学生等にも協力を呼び掛け、多くの若者の協力を得ながら事業を実施している。また、中高生のボランティア協力を得るため、市のボランティア登録制度である「武蔵野市青少年リーダー」の活用を検討している。 ・ 若い世代にコミュニティセンターの活動を知ってもらう機会になっており、次世代の担い手育成にもつながりうる取組みである。 	写真

図表 11 「人材の確保・育成」に関する取組み例③

「まちづくり局」（けやきコミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「まちづくり局」というチームを設け、個々のチームが様々なアイデアを出し合ってそれぞれプロジェクトを立ち上げている。 ・ 新たに地域活動を行いたいと考える人が自由に企画提案できる場になっており、運営委員としてのやりがいの実感につながっている。 	写真

② 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会の議論を踏まえて記載予定）

【委員会で議論が必要な点】 上述の「現状」を受けて、「人材の確保・育成」に関して、今後のコミュニティ協議会の目指すべき方向性について、提言を検討。

(3) 諸団体との連携

③ 現状に対する評価について

- ・ 多くのコミセンにおいて、利用者懇談会等を開催し、利用者・利用団体からの意見を聴取している。コミセンが利用者同士のつながりづくりを支援することもあり、要望に応じて団体間の仲介を行う例もある。
- ・ コミセン祭りや音楽祭などの大きなイベントは、普段交流のない利用者・利用団体同士や、利用者と地域住民や地域諸団体との交流を生む場にもなっている。
- ・ また、大きなイベントの運営は協議会メンバーだけではなく、地域住民・地域団体等とも連携して行う場合が多い。そのような体験を通し、利用団体や地域団体がコミセンの運営に関与するハードルが低くなっている。新しい担い手の参画など、好循環が生まれつつある。（具体例を記載）
- ・ 大きなイベントのほかにも、「地域フォーラム」等の開催により、多様な地域団体と連携して地域課題の把握・解決に取り組むような例もあり、地域における面的なネットワークは広がりつつあると言える。（具体例を記載）

【委員会で議論が必要な点】「現状」に対する評価について、上記以外に着目すべき「コミセンの取組み」や「直面している課題」を検討。

図表 12 「諸団体との連携」に関する取組み例①

ロビーにおける展示の活用（中央コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会、他）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中央コミセンのロビーは、ミニギャラリーとして利用団体が展示に活用できるようになっている。3大イベントの一つ「文化祭」においても、地域の小中学校の児童・生徒及びデイケアセンター、利用団体の作品発表の場となっている。 ・ 利用団体だけではなく、イベント時には地域諸団体の作品展示もできるなど、多様な人々の存在を感じられるロビーとなっている。 	写真

図表 13 「諸団体との連携」に関する取組み例②

井ノ頭通り美化活動（吉祥寺西コミュニティ協議会）	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者懇談会での意見がきっかけとなり、「井ノ頭通り美化活動」がスタートした。 ・ 事業の企画及び実施の両面において、地域の人々とともに行う事業である。 	写真

④ 今後に向けて

- ・ ○○○（委員会での議論を踏まえて記載予定）

【委員会で議論が必要な点】 上述の「現状」を受けて、「諸団体との連携」に関して、今後のコミュニティ協議会の目指すべき方向性について、提言を検討。

(4) 気軽に立ち寄れるコミュニティセンターづくり

①現状に対する評価

- ・ コミュニティは閉鎖的でない開放的なものとの理念
- ・ 各協議会で窓口対応の工夫を継続している
- ・ ロビー空間の工夫などハード面でも努力
- ・ 利用者や来館者からは立ち寄りにくいとの声もある
- ・ 市外利用者、地域外利用者の利用可否に地域差あり。協議会間での情報共有が必要
- ・ 新型コロナの感染症防止との両立を模索

②今後に向けて

- ・ ○○○（委員会での議論を踏まえて記載予定）

(5) 地域や利用者の状況の把握

①現状に対する評価

- ・ ~~~~~

②今後に向けて

- ・ ~~~~~

(6) 電子的な連絡手段の考慮

①現状に対する評価

- ・ ~~~~~

②今後に向けて

- ・ ~~~~~

2. 地域フォーラム、コミュニティ未来塾について

(1) これまでの経緯と現状について

① 「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言内容

- ・ 平成 26 年 11 月に示された「武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会」の提言によると、当時のコミュニティには大きく次の 4 つの課題があると示されている。

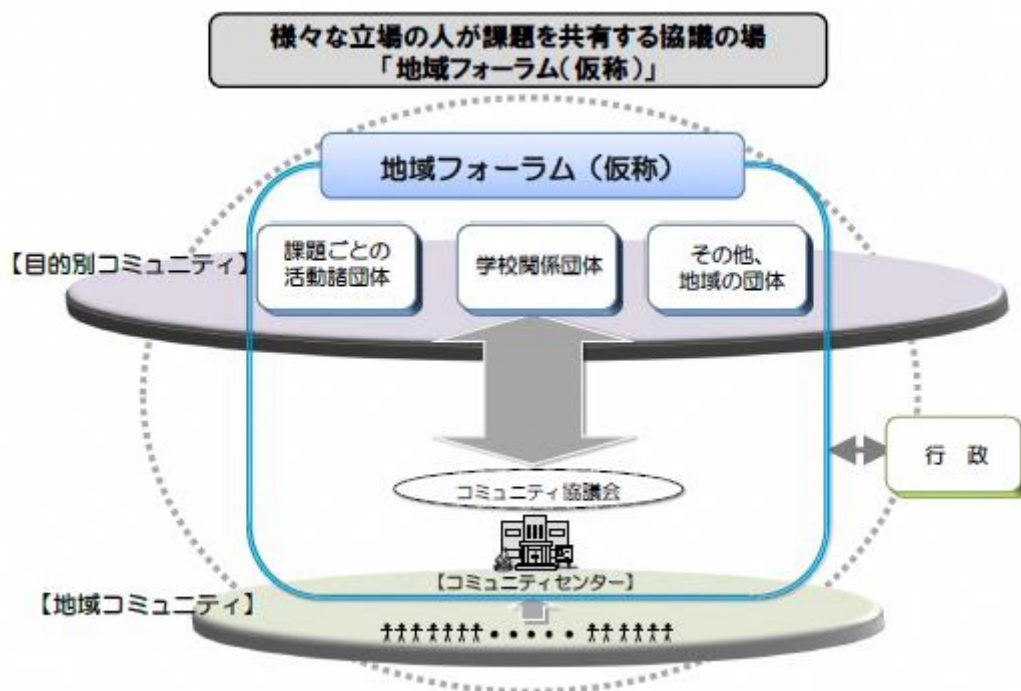
図表 14 コミュニティにおける課題（平成 25 年当時）

①コミュニティづくりの認知と連携の不足	「コミュニティ構想」や「自主三原則」の考え方は、行政にも市民にも、十分にその意義や内容が共有されていないところがあります。また、子育て・防災・福祉等の分野ごとに、いくつかの活動団体が地域ごとに組織され、コミュニティ協議会との連携が不十分なままに活動を展開しています。
②コミュニティにおける複雑な区域設定	コミュニティ協議会の 16 区域も一部の地域で重複等が見られ、ある地域が複数のコミュニティ協議会の区域に含まれています。また、課題別の活動団体の活動区域や小学校区ともコミュニティ協議会の区域が同一ではないという現状もあり、活動を進めていく上で連携のしにくさなども発生しています。
③気軽に集いやすいコミュニティセンターづくり	「コミュニティ構想」では、コミュニティは閉鎖性を持たず、開かれたものであるべきとされてきましたが、活動の拠点となるコミュニティセンターの役割が広く認知されていないことや、気軽に立ち寄りやすい施設になっていないことなどから、その利用が特定の方となりやすい傾向があります。
④地域活動の担い手の固定化や高齢化	ほとんどの団体で担い手が不足し、1 人で複数の団体を掛け持ちして活動していることも少なくありません。また、活動の負担感や活動内容の周知不足からか、若い人の参加が少ないため、担い手の高齢化が進んでいます。

（出展）武蔵野市「『武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会』提言 概要版」（平成 26 年 11 月）

- ・ これらの課題を、コミュニティ協議会や多様な活動団体、個々人、行政等で共有し、問題解決の端緒を築いていく場として、「地域フォーラム（＝協議の場）」の開催が提言された。
- ・ また、同提言においては、これからのコミュニティの実現のためには、市民自身が地域の課題を把握し、協議の場である地域フォーラムを運営する力を身に着けること、その「学び」の場を提供することも重要だとされている。そこで、平成 27 年より開始されたのが、「コミュニティ未来塾むさしの」である。
- ・ この 2 つの事業は、今後の各コミュニティ協議会の活動に与える影響が大きいと思われることから、これまでの取組み状況について整理し、考察を行うこととしたい。

図表 15 「これからのコミュニティ」のイメージ



(出展) 武蔵野市「『武蔵野市これからの地域コミュニティ検討委員会』提言 概要版」(平成26年11月)

② これまでの取組みの内容および評価

1) 地域フォーラム

- ・ 「地域フォーラム」は、平成26年以降、各コミュニティ協議会を中心に、様々な活動団体を巻き込んで、令和元年度末まで45回にわたって開催されている。
- ・ 「地域フォーラム」における開催テーマとしては、次のようなものが見られた。(詳細については巻末の資料〇を参照のこと)

図表 16 「地域フォーラム」開催テーマ(一部抜粋)

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のごみ問題を考える(桜堤コミュニティ協議会) ・ 地域医療について(吉祥寺南町コミュニティ協議会) ・ 千川地域防災について(八幡町コミュニティ協議会) ・ 地域の人材をいかに発掘し育てるか/団体の枠を超えて協力できることは何か(けやきコミュニティ協議会) ・ 武蔵野の保育を考える(吉祥寺東コミュニティ協議会) ・ みんなで考えよう!認知症 地域で支え合うには?(本宿コミュニティ協議会) ・ 公共施設等総合管理計画に関する意見交換会(16コミュニティ協議会) ・ 自治基本条例について(吉祥寺北コミュニティ協議会) |
|--|

- ・ これらの実施状況を踏まえ、コミュニティ評価委員会において、「地域フォーラム」の成果と課題について次のとおり評価を行った。

図表 17 「地域フォーラム」に関する評価委員意見

項目	評価委員意見の概要
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・研連でコミュニティセンターから「地域フォーラム」の活動報告がされるようになった頃から、コミュニティセンターと地域諸団体との協議の必要性が認識されるようになり、活動が活発化した。 ・従来、コミュニティセンターで行われていた「地域懇談会」等も「地域フォーラム」の一種だと認識され、年2回の開催が定着した例もある。同様に、<u>「地域フォーラム」の名がつかなくても、以前より同様の活動をしている</u>ことが改めて確認できた。 ・既存事業（防災祭りなど）を、より地域の諸団体が関わり、地域全体でのイベントとなるように工夫する例もみられた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・提言では行政の役割も重要だとあるが、現状ではリーダーシップを発揮することが少ない。ある程度行政が介入しなければ、他分野の団体を繋げにくい。「自主三原則」が壁になり、行政が関与をためらっているように感じるが、<u>行政からも対等な立場で発言をしてほしい</u>。改めて、行政と市民との役割分担を見直す必要がある。 ・「地域フォーラム」が、単発で開催されているように見受けられる。定期的で開催し、行政との情報交換もできていないと、提言で示された在り方（図表 15）の実現には至らないのではないかと。 ・実態として、各コミュニティセンターが主体として「地域フォーラム」を開催する例がほとんどであり、<u>他団体にあまり浸透していない</u>。 ・現状、コミュニティ協議会がコミュニティ構想の担い手として前面に出ており、負担が大きい。今後は、<u>コミュニティセンターの負担を分散し、地域で共有する方法を検討できるとよい</u>。

2) コミュニティ未来塾むさしの

- ・ 「コミュニティ未来塾むさしの」は、平成27年以降、1期ごとに4～5回の講座形式で行い、5期にわたり開催をしている。関連する有識者やコミュニティづくりの実践者を講師に迎え、多様な講義を開催したほか、参加者によるグループワークや発表なども行っている。各期のテーマは次のとおりである。

図表 18 「地域をつなぐコーディネーター養成講座（コミュニティ未来塾むさしの）」講座テーマ

期	講座テーマ
第1期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回：地域の姿を考える／参加者同士のつながりづくり ・ 第2回：コラボ・協働を生み出す対話術 ・ 第3回：地域を盛り上げるイベントの企画・集客・運営 ・ 第4回：多様なつながりのコーディネート／実践に向けてのキックオフ
第2期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・ 第2回：人脈・コラボ・協働を生み出す対話術 ・ 第3回：活動の課題解決を一緒に考える実践ワークショップ ・ 第4回：WEB・SNSを活用した広報・情報発信 ・ 第5回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営・集客
第3期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・ 第2回：人脈・コラボ・協働を生み出す対話術 ・ 第3回：活動の課題解決を一緒に考えるワークショップ ・ 第4回：WEB・SNSを活用した広報・情報発信 ・ 第5回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営・集客
第4期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回：データが語る！地域コミュニティの大切さ／コーディネーターの活動事例紹介 ・ 第2回：みんなの対話を引き出す場づくり術 ・ 第3回：あたたかいコミュニティをつくるための人と組織のマネジメント基礎 ・ 第4回：一緒に課題解決を考える実践ワークショップ ・ 第5回：地域を盛り上げるイベントの企画・運営
第5期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回：（講義）コミュニティ・マネジメント基礎－ゼミ生同士の関係性づくり ・ 第2回：（講義）強くあたたかい組織の作り方／ゼミ事前準備・オリエンテーション／プレゼンテーションを行うゼミ生の決定 ・ 第3回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換 ・ 第4回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換 ・ 第5回：ゼミ生によるプレゼンテーション&意見交換

（出展）武蔵野市提供資料「地域をつなぐコーディネーター養成講座 第1期～第5期報告書」より作成

- ・ これらの実施状況を踏まえ、コミュニティ評価委員会において、「コミュニティ未来塾むさしの」の成果と課題について次のとおり評価を行った。

図表 19 「コミュニティ未来塾むさしの」に関する評価委員会意見

項目	評価委員意見の概要
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会委員に限らず、<u>コミュニティづくりに関わる、様々な属性の人が参加していた</u>点がよい。 ・卒業生の中からは、地域活動を行う人へのインタビュー記事をインターネットに公開するといった、<u>新しい活動が一部で生まれている</u>。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニティ未来塾むさしの」を、コミュニティ協議会運営員の研鑽の場として限定する必要はないが、<u>近年ややテーマが発散している印象</u>を受ける。ある程度、コミュニティ活動に関連したものにした方がよい。 ・参加者の目的が多様であったがゆえに、内容がやや散漫になってしまった。初めてこのような活動に参加した人からは好意的な感想が上がっているが、その先の活動にまでつながらなかったという課題がある。 ・参加者の中から協議会運営委員となった人はほとんどいない。 ・「受けて終わり」ではなく、<u>次の一手につながるような在り方を検討したい</u>。

(2) 今後に向けて（総括）

①「地域フォーラム」について

- ・従来から行っていた事業を改めて「地域フォーラム」の視点から見直し、その価値の再発見をしたという成果や、一層地域の諸団体との連携を深めたという成果が挙げられた。
- ・一方で、行政のリーダーシップ不足や、コミュニティ協議会への過負担といった点について、課題が指摘されている。フォーラム開催後の展開の難しさもうかがえる。
- ・全体として、開催件数が減少傾向（平成27年度11回、28年度21回、29年度5回、30年度1回、令和元年度4回）。
- ・行政側の提案がきっかけの開催として、「公共施設等総合管理計画」や「自治基本条例」など、計画策定や条例制定に向けてのテーマあり。ただし実績としては限定的。
- ・「自治基本条例」や長期計画では、市民自治とともに、市民・行政の「協働」を重視。協働促進の機会として有効であり、行政職員の理解・認知を広め、参加・情報提供を促す必要。
- ・コミュニティ協議会と諸団体とで対話を行い、改めてそれぞれの役割分担について整理することも必要。

②「コミュニティ未来塾むさしの」について

- ・コミュニティ協議会の運営委員に限らない、様々な主体が参加できる場であったことは評価できる。
- ・地域コミュニティ検討委員会の提言を踏まえ、主にファシリテーションの重要性や技術などを学ぶ講座として開催された。ファシリテーションや合意形成の手法を身に着けるこ

とは非常に重要であるが、取り扱うテーマがやや発散的だったことは課題。

- ・ 講座の修了生は、長期計画のワークショップのファシリテーターを担ったり、また修了生同士で地域フォーラムの企画や情報発信を行ったりするなどの成果が出ている。ただし、新たにコミュニティ協議会の運営委員になったり、地域フォーラム以外でコミュニティ協議会と協働したりするような、次の一手につながる例が少なかったことは課題。
- ・ 今後は、「コミュニティ未来塾むさしの」の目的を改めて整理したうえで、「受けて終わり」の講座とならないよう、参加者や講座内容を工夫する必要。
- ・ 企画・検討にあたっては、講座形式にとらわれず、また、コミュニティ研究連絡会と丁寧話し合う必要。コミュニティ協議会の活動と連動したプログラムがあることが望ましい。
- ・ これまでのコミュニティ研究連絡会の研修事業や、武蔵野プレイスなどで行われている市民活動支援事業、武蔵野市民社会福祉協議会の事業なども参考にすべき。

【委員会で議論が必要な点】

- ・ 第6回コミュニティ評価委員会での議論を受けて記載。この評価（成果・課題）について、追記すべき事項を検討。
- ・ 追加の論点や詳細にすべき論点、または削除・修正すべき論点を確認。

3. 施設設備等のハード面について

(1) これまでの経緯と現状について

① 武蔵野市公共施設等総合管理計画の策定について

- ・ 武蔵野市では、将来にわたって健全な財政を維持しながら、公共施設を時代のニーズに合った施設に再整備し、魅力あるまちづくりを目指すために、平成 29 年 2 月に「武蔵野市公共施設等総合管理計画」を策定した。

図表 20 「武蔵野市公共施設等総合管理計画」の概要

※武蔵野市公共施設等総合管理計画の概要(ポイント)の説明

- ・ この計画では、施設類型ごとに、施設整備に関して検討すべき内容や考え方について方針を取りまとめており、コミュニティセンターについては以下のとおりである。

図表 21 「武蔵野市公共施設等総合管理計画」におけるコミュニティセンターの類型別方針

- 中長期的にはコミセン、地域福祉、地域防災などの地域活動エリアのあり方について、学区区との関係も勘案しながら検討する。双方に利点があることを前提に、立地条件や歴史性、改築時期などに十分に留意し、施設の併設・複合化・多機能化等を検討する。
- コミセンによって施設内容や整備水準に差異がある。分館(元出張所)のあり方を検討するとともに、地域性などにも配慮しながら標準仕様を定めて整備していく。
- 改築時期等を見据え、エレベーターのない既存施設には積極的に設置を検討する。
- 災害時の地域支え合いステーションとしての機能が発現できるよう検討する。

② これまでの整備状況について

- ・ コミセンの施設の老朽化に伴う改修やバリアフリー化等については、市での定期点検に基づき状況に応じて実施されている。具体的な改修・工事の経緯は下記の通りである。

図表 22 コミュニティセンターの改修・工事の経緯 →築 60 年目を迎える年度の表に差替え予定

コミセン（分館含む）	改修・工事の経緯
1. 吉祥寺東	・ 2014 年、大広間空調設備更新工事
2. 本宿	・ 2013 年、空調設備改修工事 ・ 2015 年、外壁・屋上防水工事
3. 吉祥寺南	・ 2001 年、屋上防水・外壁等改修工事 ・ 2011 年、太陽光発電設備設置工事 ・ 2012 年、エレベーター改修工事 ・ 2017 年、給排水管更新工事、空調設備更新工事、電気設備工事
4. 御殿山	・ 2001 年、空調設備改修工事 ・ 2018 年、エレベーター設置・屋上防水等工事
5. 本町	・ 1994 年、外壁等改修工事 ・ 2005 年、空調設備改修工事、屋上防水工事 ・ 2019 年、屋上防水工事
6. 吉祥寺西	・ 2011 年、外壁改修工事 ・ 2012 年、旧学童保育室改修工事 ・ 2013 年、エレベーター改修工事
吉祥寺西分館	－
7. 吉祥寺北	・ 1992 年、屋上防水工事 ・ 1993 年、外壁改修工事 ・ 1996～1997 年、空調設備改修工事 ・ 2002 年、トイレ洋便器化工事 ・ 2005 年、大雨被害復旧工事（地下内装改修、地下空調更新、エレベーター改修、電気設備更新など） ・ 2014 年、屋上キュービクル改修工事、屋上防水工事、トイレ改修工事 ・ 2018 年、空調設備更新工事（1 階・2 階）
8. けやき	・ 2014 年、空調設備更新工事 ・ 2019 年、エレベーター設置工事
9. 中央	・ 1995 年、屋上防水工事 ・ 1998 年、空調設備更新工事 ・ 2007 年、外壁改修工事 ・ 2008 年、階段昇降機設置工事 ・ 2018 年、給排水管更新工事、空調設備更新工事、内装改修工事。
中町集会所	・ 2014 年、大広間空調設備更新工事
10. 西久保	・ 1992 年、外壁改修工事 ・ 2007 年、エレベーター改修工事

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年、空調設備改修工事 ・ 2013 年、アルミサッシ改修工事 ・ 2015 年、給排水管・トイレ等改修工事
11. 緑町	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2013 年、空調設備更新工事 ・ 2015 年、外壁改修工事 ・ 2016 年、エレベーター設置工事
12. 八幡町	—
13. 関前	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011 年、空調設備更新工事 ・ 2015 年、給排水管・トイレ更新工事 ・ 2016 年、エレベーター設置工事
関前分館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2006 年、2 階内装改修工事 ・ 2017 年、空調機更新工事（1 階・2 階）
14. 西部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2002 年、トイレ洋便器化工事 ・ 2003 年、空調設備更新工事 ・ 2004 年、屋上防水工事 ・ 2005 年、外壁改修工事 ・ 2016 年、体育室特定天井改修工事 ・ 2017 年、エレベーター更新工事
15. 境南	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1990 年、エレベーター設置工事 ・ 1991 年、外壁・屋上防水工事 ・ 1992 年、空調設備改修工事 ・ 1996 年、玄関風除室新築工事 ・ 2004 年、耐震補強改修工事 ・ 2009 年、外壁・軒裏改修工事 ・ 2012 年、エレベーター改修工事 ・ 2016 年、空調設備更新工事 ・ 2017 年、屋上防水工事
16. 桜堤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2007 年、1 階・2 階トイレ改修工事 ・ 2016 年、空調設備更新工事 ・ 2019 年、エレベーター設置工事

③ 施設の老朽化の状況について

- ・ ~~~追記予定
- ・

(2) 今後に向けて(総括)**今後の施設整備・維持管理に求められる考え方****①施設の再配置等について**

- ・現在あるコミュニティセンター19館(分館含む)については、これまで個々の地域の特性を踏まえて建設され、市民自治の拠点として発展してきた歴史的な経緯がある。
- ・各々のコミュニティ協議会は、開設から数10年を経て、相当に施設運営に熟達してきている。主催事業の経験や利用者からの声を踏まえ、施設が有する部屋や設備、さらに庭や公園等の周辺環境も含め、その特長と制約を生かして施設を上手に有効活用する努力と工夫を続けており、コミセンでの様々な活動を促し、市民のコミセンへの愛着を高めている。
- ・これらを踏まえると、主に財政的な事情から他施設との統合(複合化)を積極的に検討するというよりは、今後も適切に施設のメンテナンスを行いながら、16のコミュニティ協議会ごとに施設を維持していくことが基本となるのではないかな。
- ・一方、コミュニティセンターは地域コミュニティの核となる機能を有しているため、福祉や防災との連携や、様々な団体の活動や学校区との関係などを踏まえて、施設のあり方について柔軟に議論を進めることはあってもよいだろう。
- ・なお、分館については、歴史的な経緯や現状のメリット・デメリット、将来の利用状況、周辺施設との関係などを十分に勘案し、必要性や機能のあり方を検討すべきである。

②施設の保全・改修について**1) 老朽化への対応**

- ・公共施設等総合管理計画に基づき、定期的な点検と適切なメンテナンスにより60年以上の使用が可能な長寿命化を図ることが基本。全コミセンで法的な耐震性は満たしている。
- ・施設の安全性を確保するため、施設の劣化状況を客観的に評価し、計画的に改修を行う必要。

2) バリアフリーの改善

- ・コミュニティセンターはその立地条件や歴史性、改築時期等によって、施設内容や整備水準に差異。
- ・ただし、社会状況の変化を踏まえると、特にバリアフリー面の対応については、地域性に関わらず、標準な仕様・水準を積極的に満たしていく必要。廊下や階段の手すり、トイレの仕様、案内表示などの改善が必要と思われる施設あり。
- ・中でもエレベーターの設置がない既存施設のうち、設置可能な施設については、エレベーターの導入を積極的に検討すべき。

3) 利便性の向上

- ・施設の利用状況や利用者のニーズ等を総合的に鑑みながら、誰もが使いやすい施設になるよう、改修時期を見据えつつ、内装改修や部屋の用途変更等を検討。

3) その他

【委員会で議論が必要な点】施設の維持管理・改修の方向性について、追加の論点や詳細にすべき論点、または削除・修正すべき論点を確認。

資料編

1. 議論の経過

- ・ 各評価委員会の議題を整理

2. 各コミュニティ協議会の概況

- ・ コミュニティ協議会の概要について、①施設概要、②利用者数の推移、③主な事業（写真あり）、④平面図、⑤ハード面に関する情報（設置の経緯、公示経緯等）などを視察時の資料及び利用者アンケート調査等より作成予定

3. 各種調査結果

(1) 無作為抽出市民アンケート

- ・ 無作為抽出アンケートの調査結果を掲載

(2) 利用者アンケート

- ・ 各コミュニティセンター別の利用者アンケート調査の結果を掲載

(3) 意見交換会結果

- ・ コミュニティセンター別の意見交換会における意見一覧を掲載

(4) 視察

- ・ コミュニティセンター別の視察時の意見一覧を掲載

第四期 武蔵野市コミュニティ評価委員会 報告書
(令和2年〇〇月)

発行・編集

武蔵野市 市民部 市民活動推進課
〒180-8777 東京都武蔵野市緑町2-2-28
電話 0422-60-1830 (直通)